

社会保障及び「共通番号」制度に関する アンケート調査結果

平成 2 3 年 4 月
内閣官房社会保障改革担当室

目次

調査概要	P2	第2章 番号制度	P15
第1章 社会保障	P3	2-1. 番号制度導入に対する現在の意識について	P16
1-1. 現在の社会保障制度に対する満足度	P4	2-2. 番号制度導入についての認知度	P17
1-2. 社会保障制度の各分野に対する満足度	P5	2-3. 番号制度導入に対する必要度(1)	P18
1-3. 社会保障制度の各分野についての改革の緊急度	P6	2-4. 番号制度導入に対する必要度(2)	P19
1-4. 社会保障制度の問題点	P7	2-5. 個人情報保護に関する懸念(1)	P20
1-5. 今後の社会保障制度について	P8	2-6. 個人情報保護に関する懸念(2)	P21
1-6. 今後の給付と負担のバランスについて	P9	2-7. 個人情報保護に関する懸念(3)	P22
1-7. 今後の負担のあり方について	P10	2-8. 国家による監視・監督への懸念(1)	P23
1-8. 今後の給付のあり方について	P11	2-9. 国家による監視・監督への懸念(2)	P24
1-9. 今後の社会保障制度のあり方について	P12	2-10. 国家による監視・監督への懸念(3)	P25
参考:WEB一対比較評価法について	P13-14	2-11. 国家による監視・監督への懸念(4)	P26
		2-12. 第三者機関にについて	P27
		2-13. その他の懸念(1)	P28
		2-14. その他の懸念(2)	P29
		2-15. ICカードについて(1)	P30
		2-16. ICカードについて(2)	P31
		2-17. ICカードについて(3)	P32
		2-18. マイ・ポータルについて	P33

調査概要

- ◆ 調査目的: 社会保障制度についての課題、特に給付と負担のあり方などについて国民の意識を探るとともに、「共通番号」制度についての認知度や制度の導入に関する要望、懸念等を調査・分析する。
- ◆ 調査方法: インターネット上での調査。オンライン回答。
- ◆ 対象者: 20歳以上 男女
- ◆ エリア: 全国
- ◆ 回答者数: 3000人

※総務省統計局の人口推計における10歳階級別の人口構成比に近似

- ◆ 対象者の構成:

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体
男性	207	261	240	234	252	249	1443
女性	198	255	237	237	270	360	1557
計	405	516	477	471	522	609	3000

- ◆ 調査期間: 平成23年3月9日(水)～3月16日(水)
- ◆ 調査機関: 株式会社スパイア
- ◆ 報告書内の記述について

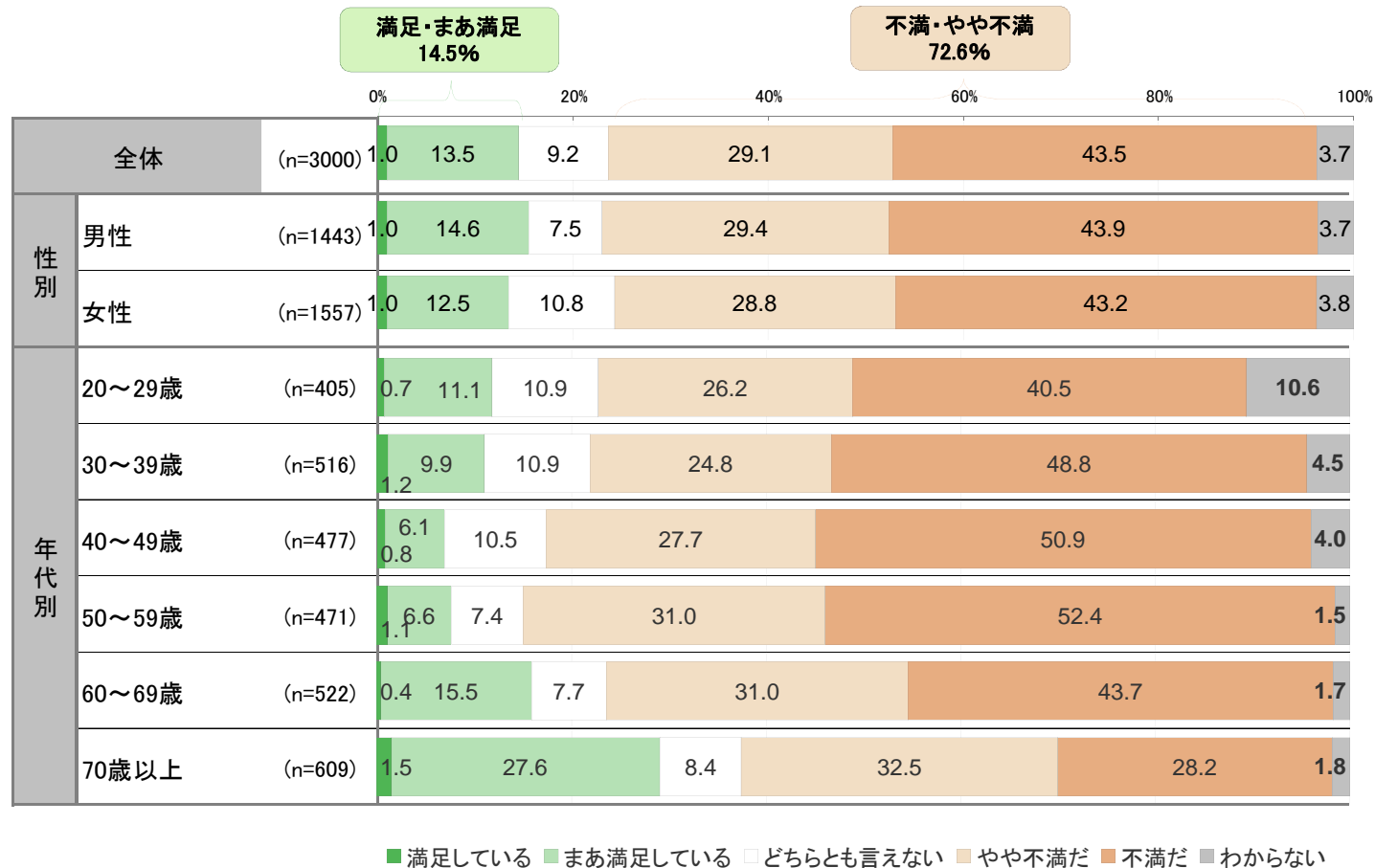
[SA]: 単一回答、[MA]: 複数回答、[3MA]: 3つ以内を選び回答、[FA]: 自由回答

第1章 社会保障

1-1. 現在の社会保障制度に対する満足度

- 現在の社会保障制度に対する満足度は、「満足している」「まあ満足している」を合わせて14.5%。「不満だ」「やや不満だ」は72.6%と、満足度を大きく上回る。
- 年代によって評価が異なり、不満は20代から徐々に上昇し、50代でピークとなる。その後、60代・70歳以上では満足度が高くなり、70歳以上では満足度が3割近い。

質問. あなたは、全体として、現在の社会保障制度にどの程度満足していますか。[SA]

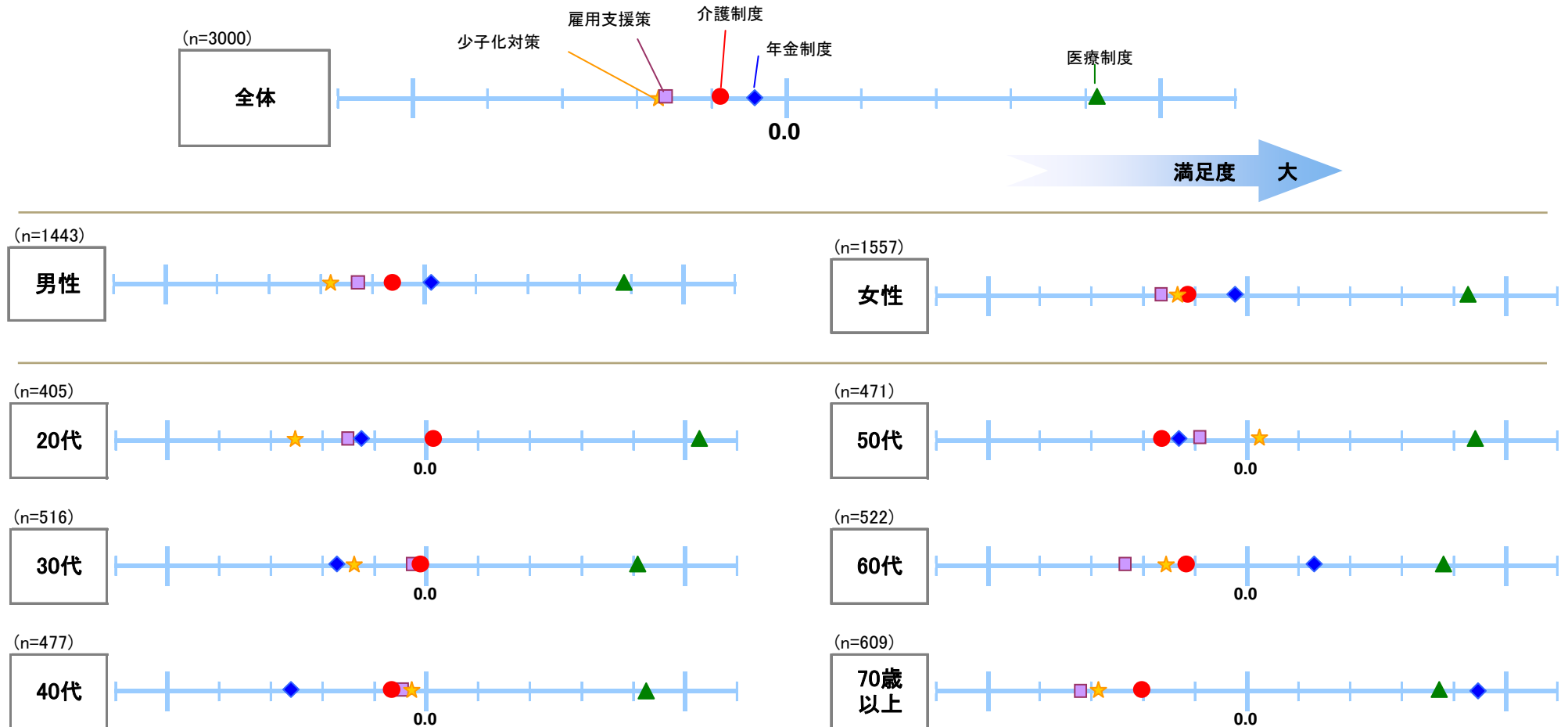


1-2. 社会保障制度の各分野に対する満足度

- 「年金制度」「医療制度」「介護制度」「雇用支援策」「少子化対策(子育て支援)」の5つの分野から2つずつ提示し、より満足している分野を選択してもらい、各分野に対する相対的な満足度を確認した。(Web一対比較法(P13-14参照)を用いて調査。)
- 「医療制度」については、男性・女性・各年代とも、満足度が高い。
- 70歳以上では、「医療制度」「年金制度」の満足度が高いのに対して、「介護制度」の満足度が低いことが特徴的。
- 20代では「少子化対策」の満足度が低い。また、50代では「介護制度」の満足度が低い。

質問. 以下の事柄について比較してお答えください。[SA]

【より満足している分野】 (「年金制度」「医療制度」「介護制度」「雇用支援策」「少子化対策(子育て支援)」から2つずつ提示)

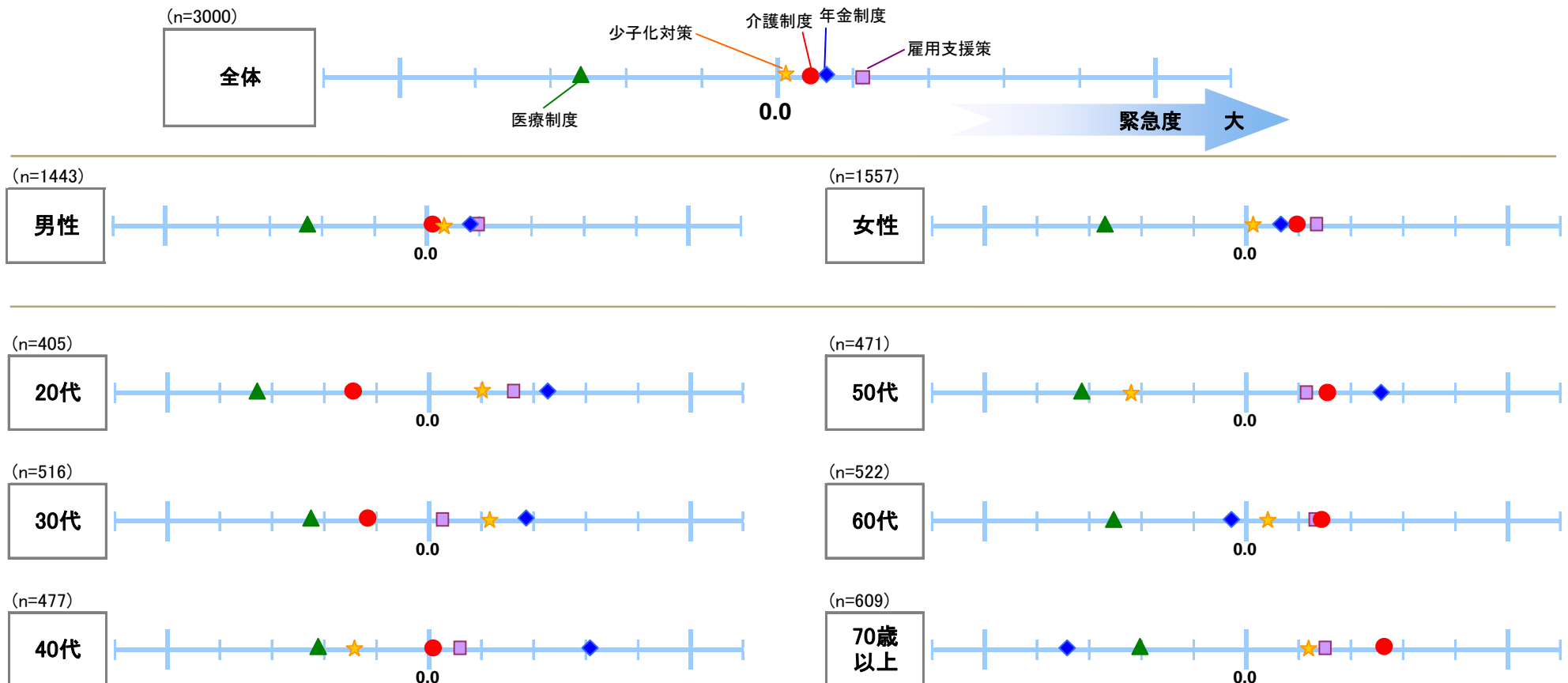


1-3. 社会保障制度の各分野についての改革の緊急度

- 「年金制度」「医療制度」「介護制度」「雇用支援策」「少子化対策(子育て支援)」の5つの分野から2つずつ提示し、より緊急に改革に取り組むべき分野を選択してもらい、各分野についての相対的な改革の緊急度を確認した。(Web一対比較法(P13-14参照)を用いて調査。)
- 全体では、「雇用支援策」が最上位であり、次に「年金制度」と続き、満足度の高い「医療制度」は低くなっている。
- 20代～50代では、より緊急に改革に取り組むべき分野として「年金制度」が最も多く選ばれている。
- 「介護制度」については、年代が高いほど緊急な改革に取り組むべきだと考える人が多い。
- 「少子化対策」については、20代・30代とともに、60代・70歳以上でも緊急な改革に取り組むべきだと考える人が多い。

質問. 以下の事柄について比較してお答えください。[SA]

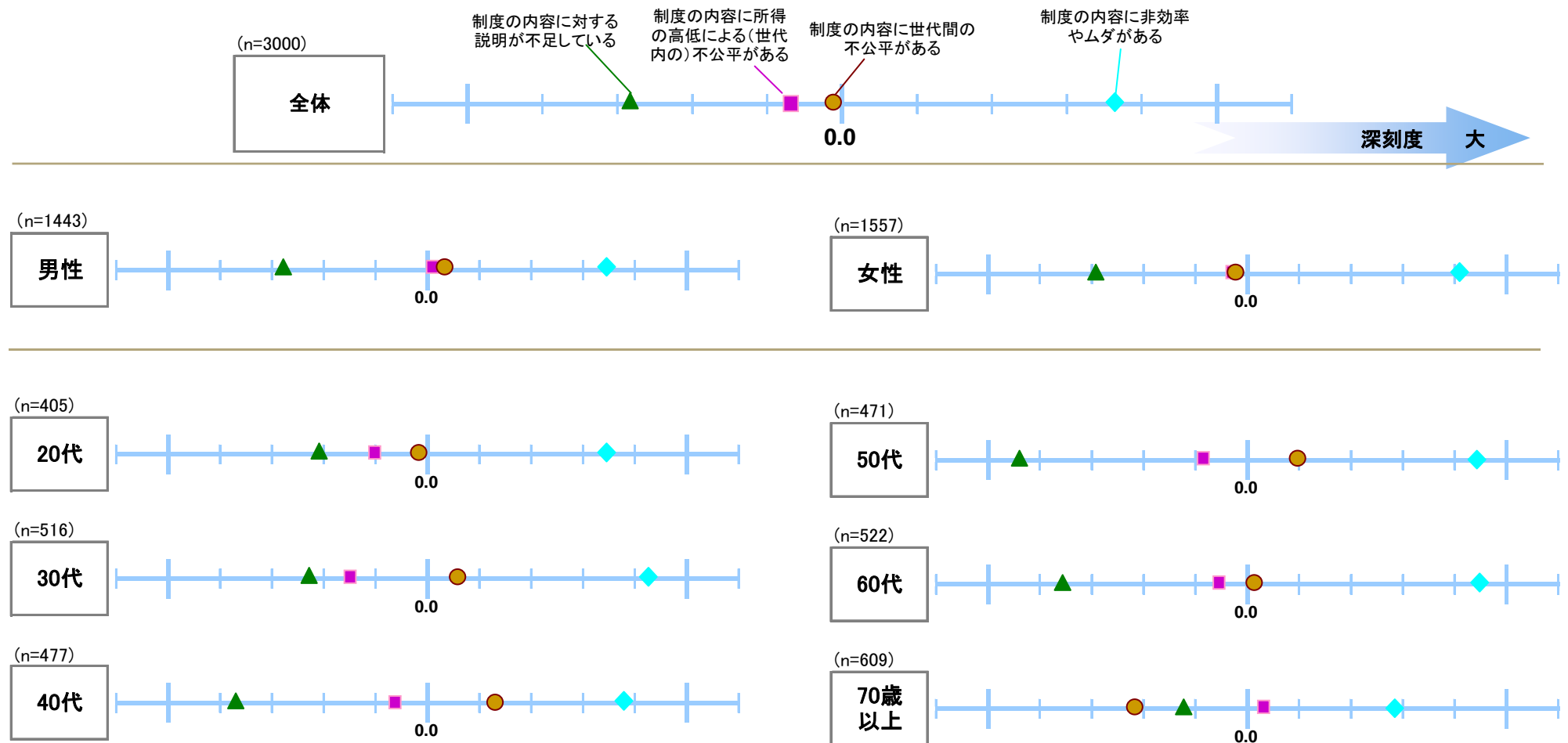
【より緊急に改革に取り組むべき分野】 (「年金制度」「医療制度」「介護制度」「雇用支援策」「少子化対策(子育て支援)」から2つずつ提示)



1-4. 社会保障制度の問題点

- 社会保障制度の問題点として、「制度の内容に世代間の不公平がある」「制度の内容に所得の高低による(世代内の)不公平がある」「制度の内容に非効率やムダがある」「制度の内容に対する説明が不足している」の4つから2つずつ提示し、より深刻であると思う方を選択してもらい、各選択肢を問題点とする意識の程度を確認した。(Web一対比較法(P13-14参照)を用いて調査。)
- 男性・女性・各年代とも、「制度の内容に非効率やムダがある」ということをより深刻な問題とする回答が最も多い。

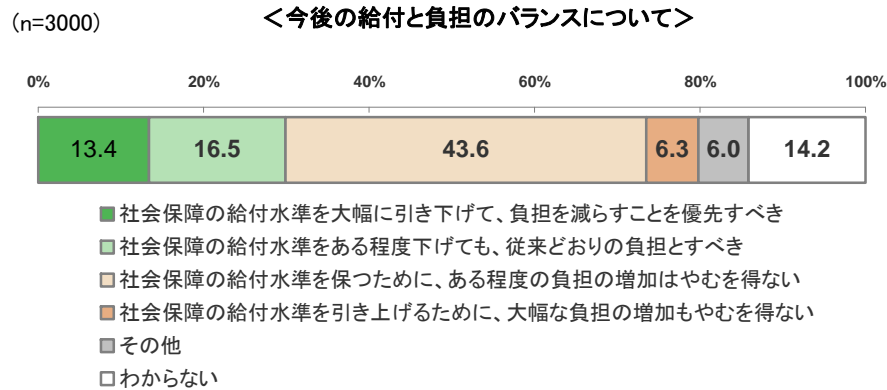
質問. 以下の2つの問題点を比較して深刻であると思う方をお答えください。[SA] (「制度の内容に世代間の不公平がある」「制度の内容に所得の高低による(世代内の)不公平がある」「制度の内容に非効率やムダがある」「制度の内容に対する説明が不足している」から2つずつ提示)



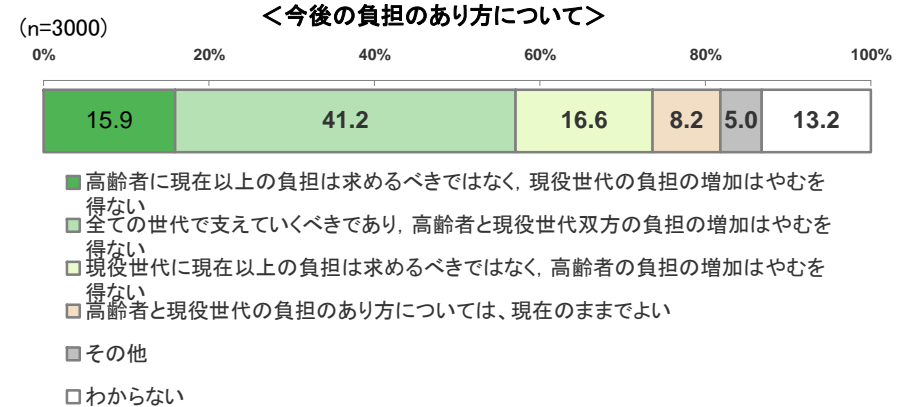
1-5. 今後の社会保障制度について

- 今後の社会保障制度の『給付と負担のバランス』に対する意識については、社会保障の給付水準の維持・引上げのために、負担増を容認する人が49.9%と、ほぼ半数を占める。
- 『今後の負担のあり方』としては、「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」が41.2%で最も多い。『今後の給付のあり方』としては、「雇用支援策、少子化対策など、現役世代の生活を支えることを現在よりも重視すべき」が44.8%で、高齢者の生活をより重視する意見を上回った。
- 今後の社会保障制度のあり方としては、「自分の生活は、基本的には自分でなんとかするが、(中略)足りない部分は社会保障でみてもらいたい」が61.1%で半数以上を占めた。

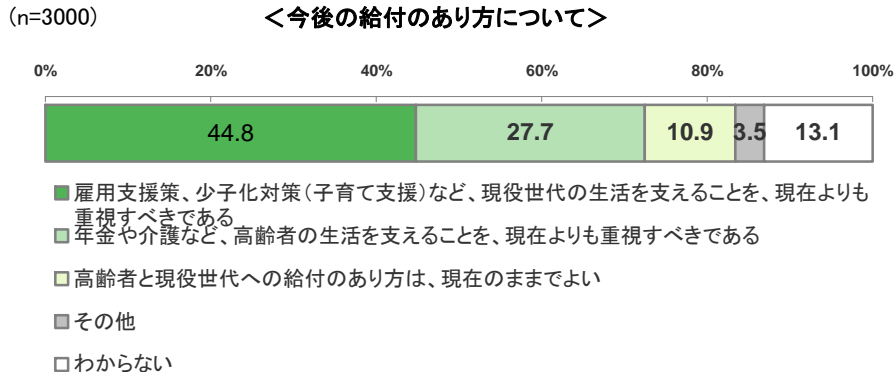
質問. 今後の社会保障の給付と負担のバランスについて、今後どのような方向をめざすべきだと思いますか。[SA]



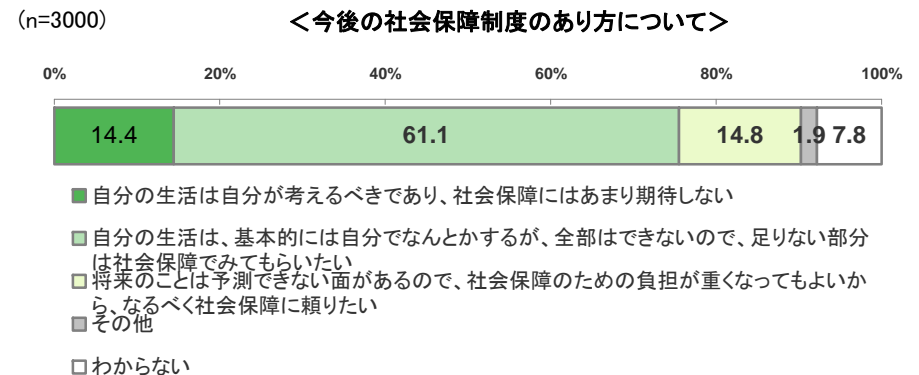
質問. 社会保障制度における高齢者と現役世代の負担のあり方について、今後どのような方向をめざすべきだと思いますか。[SA]



質問. 社会保障制度における高齢者と現役世代への給付のあり方について、今後どのような方向をめざすべきだと思いますか。[SA]



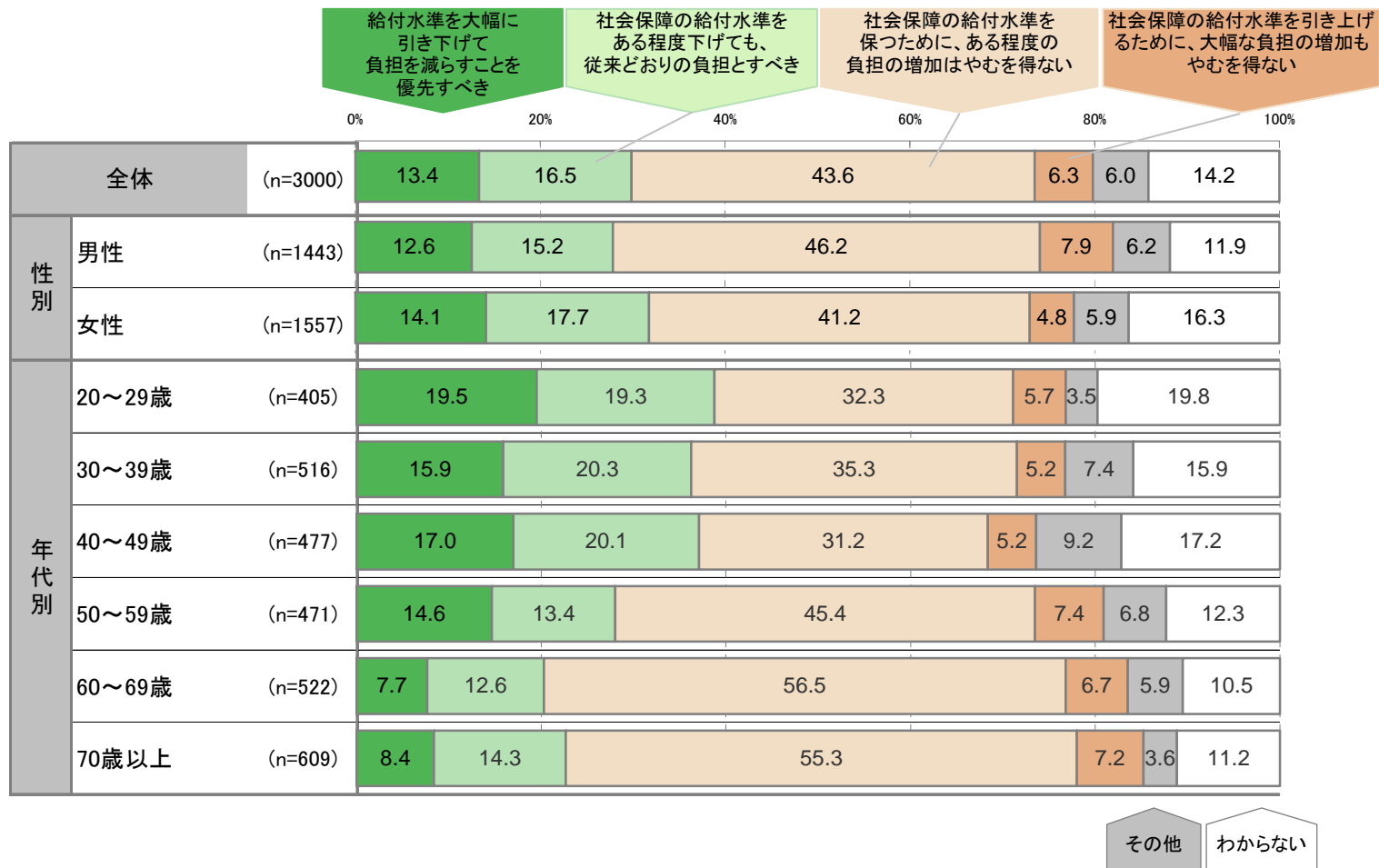
質問. 今後の社会保障制度のあり方について、あなたのお考えに近いものを1つだけお答え下さい。[SA]



1-6. 今後の給付と負担のバランスについて

- 今後の社会保障制度の給付と負担のバランスについて、全体としては、社会保障の給付水準を保つ又は引き上げるために負担の増加はやむを得ないとして負担増を容認する人が、給付水準を引き下げても負担を従来どおり又は減らすことを優先すべきと考える人よりも多い。
- 50代以上では、給付水準の維持・引上げのために負担増を容認する回答が5割強～6割強であるが、給付水準を引き下げても負担を維持・削減すべきとの回答が、2割～3割に止まる。一方、20代～40代では、給付水準を引き下げても負担を維持・削減すべきとの回答と、給付水準の維持・引上げのために負担増を容認する回答が、ほぼ同じ程度である。

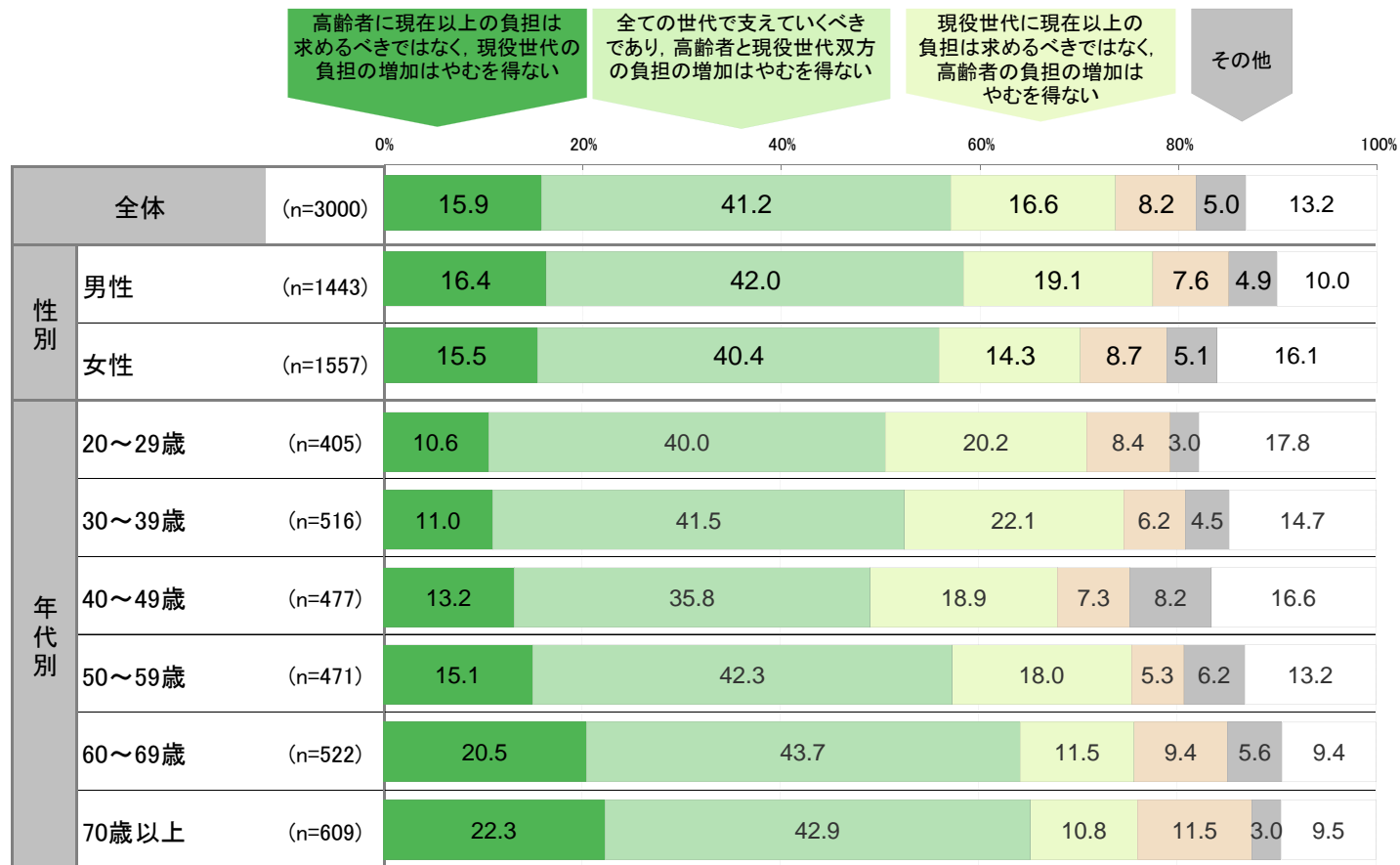
質問. 今後の社会保障の給付と負担のバランスについて、今後どのような方向をめざすべきだと思いますか。[SA]



1-7. 今後の負担のあり方について

- 今後の社会保障制度の負担に対する考え方は、男性・女性・各年代ともに「全ての世代で支えていくべきであり、高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない」が4割前後で最も高い。
- 次いで、50代以下では「現役世代に現在以上の負担を求めるべきではなく、高齢者の負担の増加はやむを得ない」が、60代以上では「高齢者に現在以上の負担は求めるべきではなく、現役世代の負担の増加はやむを得ない」という意見がそれぞれ高い。

質問. 社会保障制度における高齢者と現役世代の負担のあり方について、今後どのような方向をめざすべきだと思いますか。[SA]



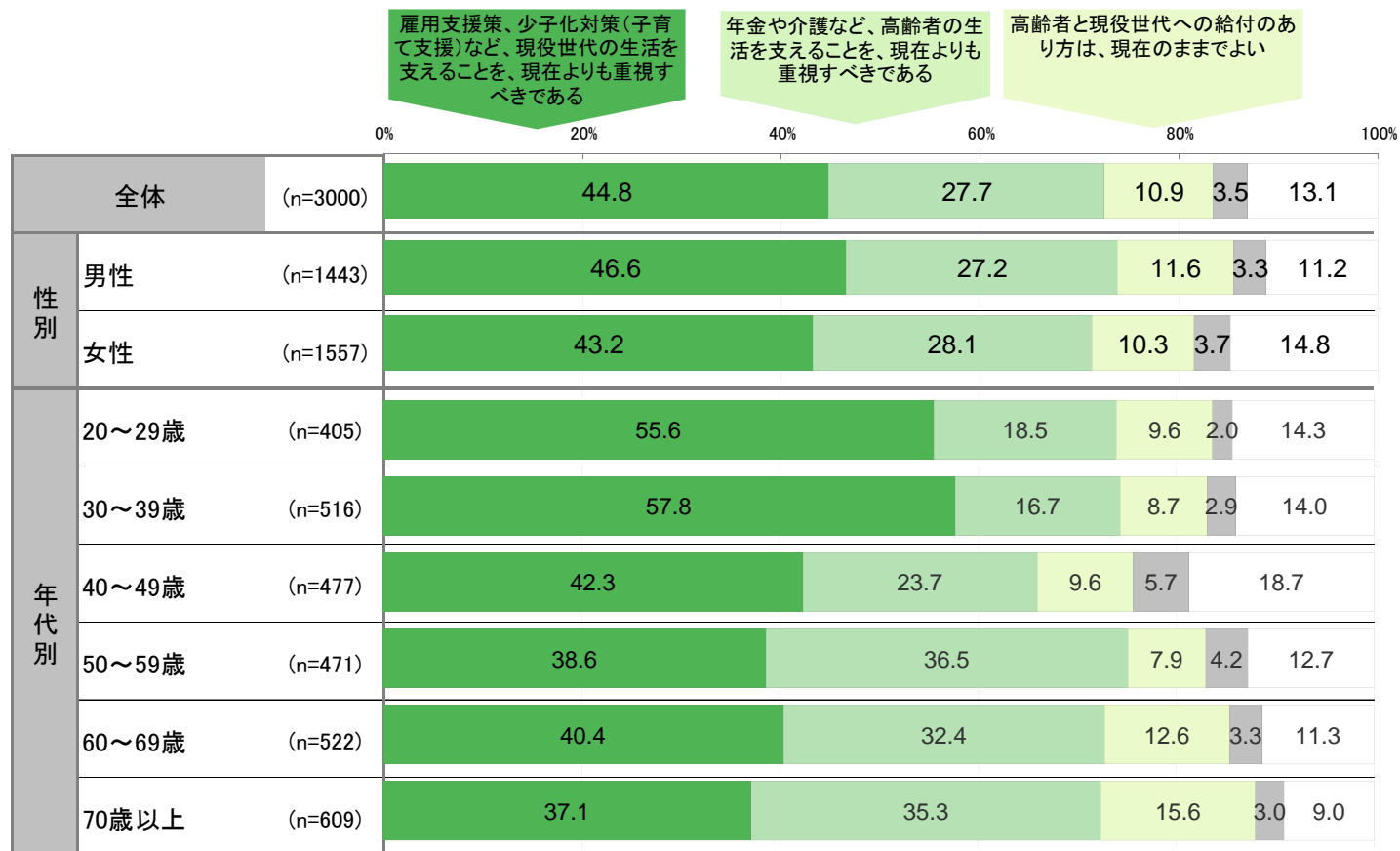
高齢者と現役世代の負担のあり方については、現在のままでよい

わからない

1-8. 今後の給付のあり方について

- 今後の社会保障制度の給付のあり方は、男性・女性・各年代ともに、「雇用支援策、少子化対策など、現役世代の生活を支えることを現在よりも重視すべきである」が最も高く、20代・30代ではそれぞれ5割を超えており、特に高い。
- 40代以降では、「年金や介護など、高齢者の生活を支えることを現在よりも重視すべきである」が占める割合が高まる。特に40代から50代にかけては高まりが特に大きい。

質問. 社会保障制度における高齢者と現役世代への給付のあり方について、今後どのような方向をめざすべきだと思いますか。[SA]

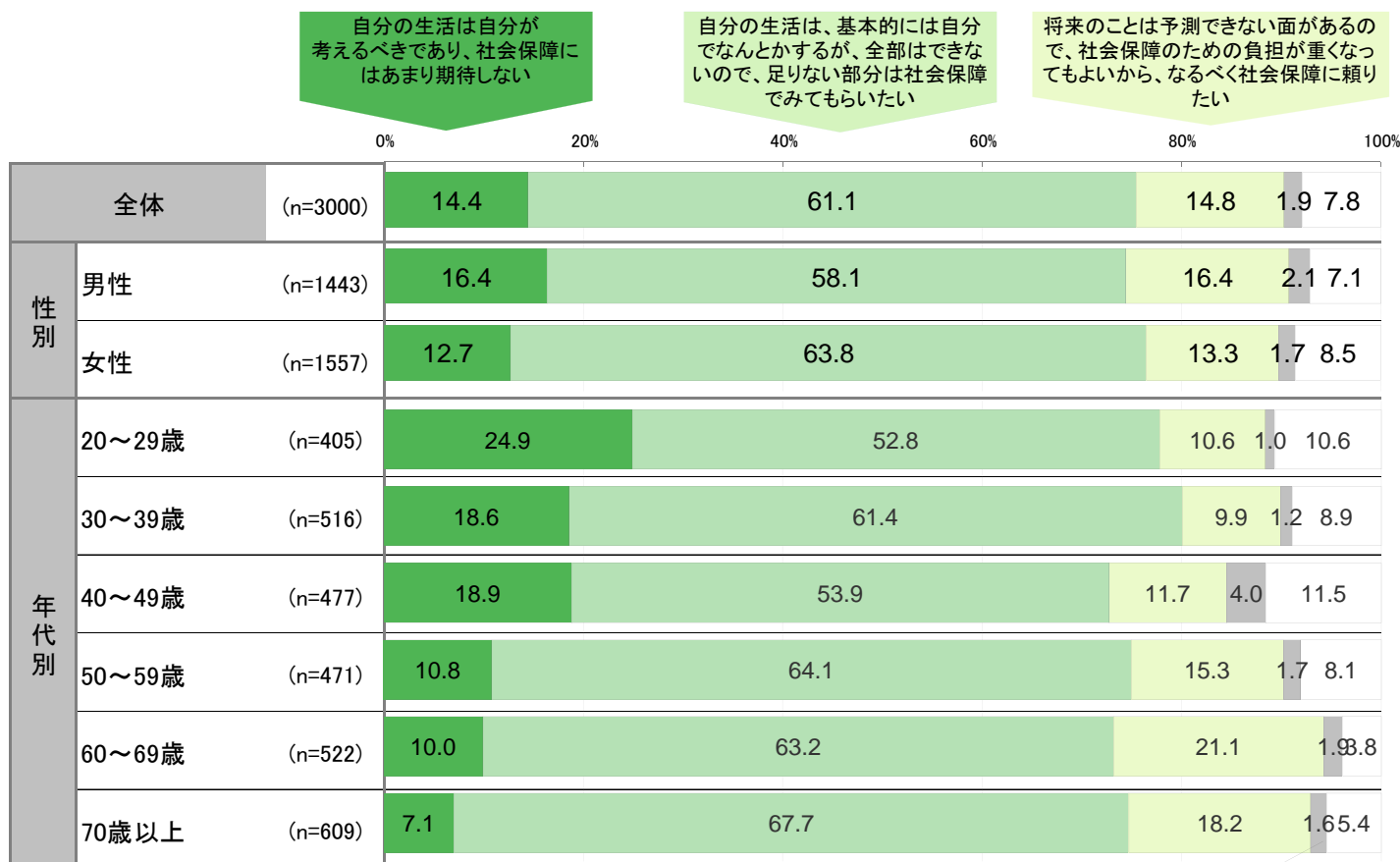


その他 わからない

1-9. 今後の社会保障制度のあり方について

- 今後の社会保障制度のあり方としては、「自分の生活は自分でなんとかするが、足りない部分は社会保障でみてもらいたい」という回答が、男性・女性・各年度ともに最も多い。
- 20代から40代にかけては「自分の生活は自分が考えるべきであり、社会保障にはあまり期待しない」という考えが比較的多く、特に20代では全体の4分の1を占めている。50代以上ではこの考え方は減少し、「将来のことは予測できない面があるので、社会保障のための負担が重くなってもよいから、なるべく社会保障に頼りたい」が比較的多い。

質問. 今後の社会保障制度のあり方について、あなたのお考えに近いものを1つだけお答え下さい。[SA]



その他 わからない

参考: WEB一対比較評価法について

- よく行われている順位法と絶対評価法

<順位法>

Q.あなたは、以下のAからEの中で、最も利用しているものはどれですか。1つお選びください。

<input type="radio"/>	A
<input type="radio"/>	B
<input type="radio"/>	C
<input type="radio"/>	D
<input type="radio"/>	E

メリット

- ✓回答者が選択しやすい

デメリット

- ✓1つしか選択できないため、残りの選択肢に対する評価の程度がわからない

<絶対評価法>

Q.あなたは、以下のAからEについてどの程度利用していますか。それぞれについてあなたのお考えに近いものを1つお選びください。

		利用している	まあ利用している	あまり利用していない	利用していない
A	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
D	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
E	→	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

メリット

- ✓AからE全ての項目に対する評価の程度がわかる

デメリット

- ✓多段階評価のため、設問数や評価項目が多い場合に回答者の負担が大きくなる
- ✓同じ評価を受けたもの同士の差が明確でない

順位法と絶対評価法の両方の課題を解決した方法が

「※WEB一対比較評価法」

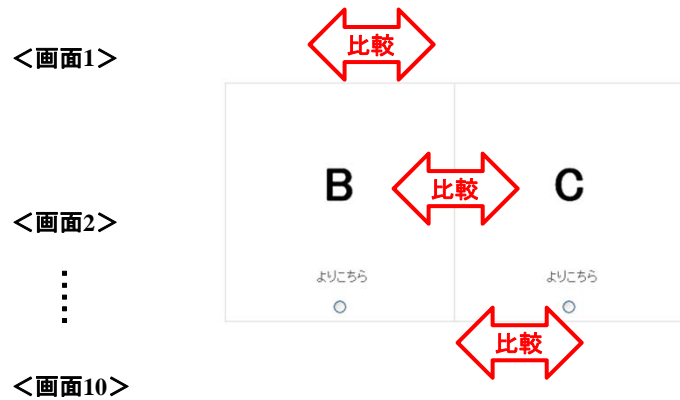
※2つの対象物に対する比較評価を連続的に行うことにより、評価の順位と程度が分かる方法。
さらにWEBを用いることにより、設問のランダム表示が可能となり、より精度の高い分析が可能となる。

参考: WEB一対比較評価法について

• WEB一対比較法

<画面イメージ>

Q.以下の2つの問題点を比較して、より●●であると思う方をお答えください。(1つだけ)



①対象物を2つ抽出し、横に並べてどちらがふさわしいかを回答者
に選択してもらいます。

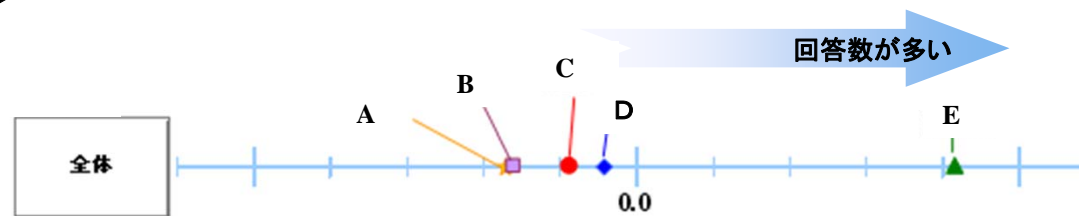
②これを全組合せについて繰り返し行います。
(ここではAからEの5つが対象なので、全組合せは10通り)

WEB一対比較法のメリット

✓2つの比較なので、回答者にとって迷いが少なく、回答ができる

✓全組合せについて、評価することが可能であり、明確に評価の順位
を算出できる。また、一軸上で表すことができる。

<アウトプットイメージ>



- 全組合せについて確認したそれぞれの対象物の選択率(ここでは「利用している」)をもとに、各対象物を一軸上に並べます。
- 軸上の「0.0」は、回答者による選択率がちょうど5割であることを意味しており、「0.0」より右側が選択率が5割より高く、左側が5割より低いということを意味しています。つまり、評価対象が右にあるほど、より多くの回答者を選択されていることを表しています。
- また、対象物間の間隔が広いほど、その指標の度合いに開きがあることを表しています。

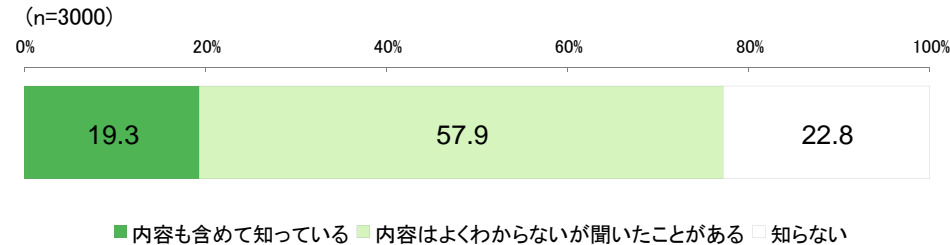
第2章 番号制度

2-1. 番号制度導入に対する現在の意識について

- 社会保障・税に関わる番号制度の導入検討については、「内容も含めて知っている」は19.3%。「内容はよくわからないが聞いたことがある」は57.9%で、合わせると8割近くに認知されている。
- 認知者の認知経路としては「テレビ・ラジオ」(71.5%)が最も高く、次に「新聞報道」(61.1%)が高い。
- 先進諸外国の番号制度導入についての認知度は、「内容も含めて知っている」が16.5%、「内容はよくわからないが聞いたことがある」が55.8%である。
- 番号制度の必要度については、「必要だと思う」(26.2%)、「どちらかといえば必要だと思う」(44.2%)を合わせると70.4%である。

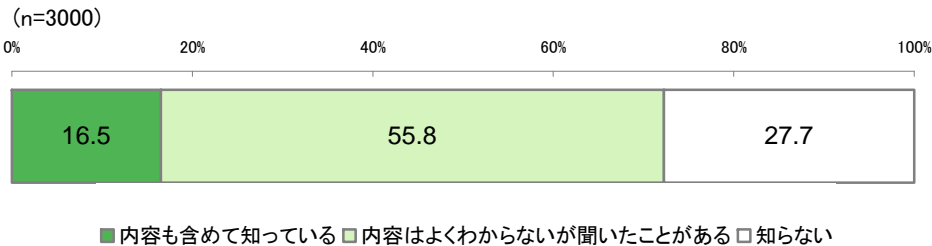
質問. 現在、政府で社会保障・税に関わる番号制度の導入が検討されていることについて、あなたはご存知ですか。【SA】

<番号制度導入検討についての認知度>



質問. 先進諸外国では、多くの国で既に番号制度が導入されています(例: アメリカ・社会保障番号、スウェーデン・共通番号、韓国・住民登録番号など)。あなたは、このことについてご存知ですか。【SA】

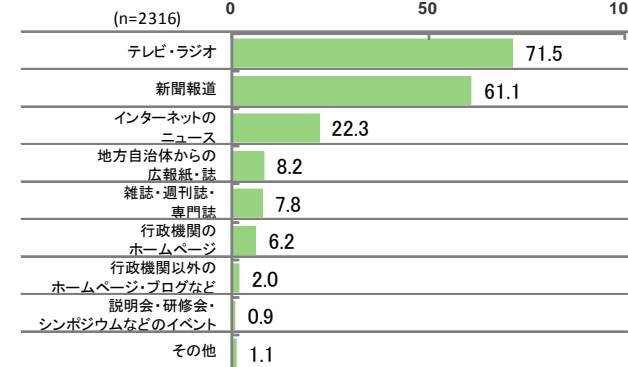
<先進諸外国における番号制度導入の認知度>



質問. あなたは、社会保障・税に関わる番号制度の導入が検討されていることをどのようにして知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。【MA】

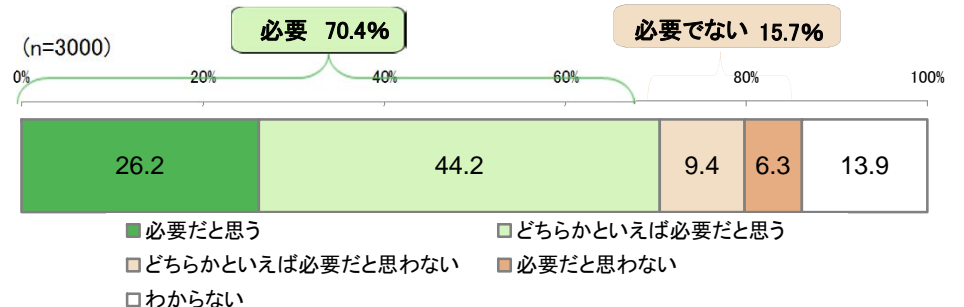
<番号制度導入の認知経路>

※ 導入について「内容も含めて知っている」「内容はよくわからないが聞いたことがある」回答者



質問. あなたは、日本でも共通番号制度が必要だと思いますか。【SA】

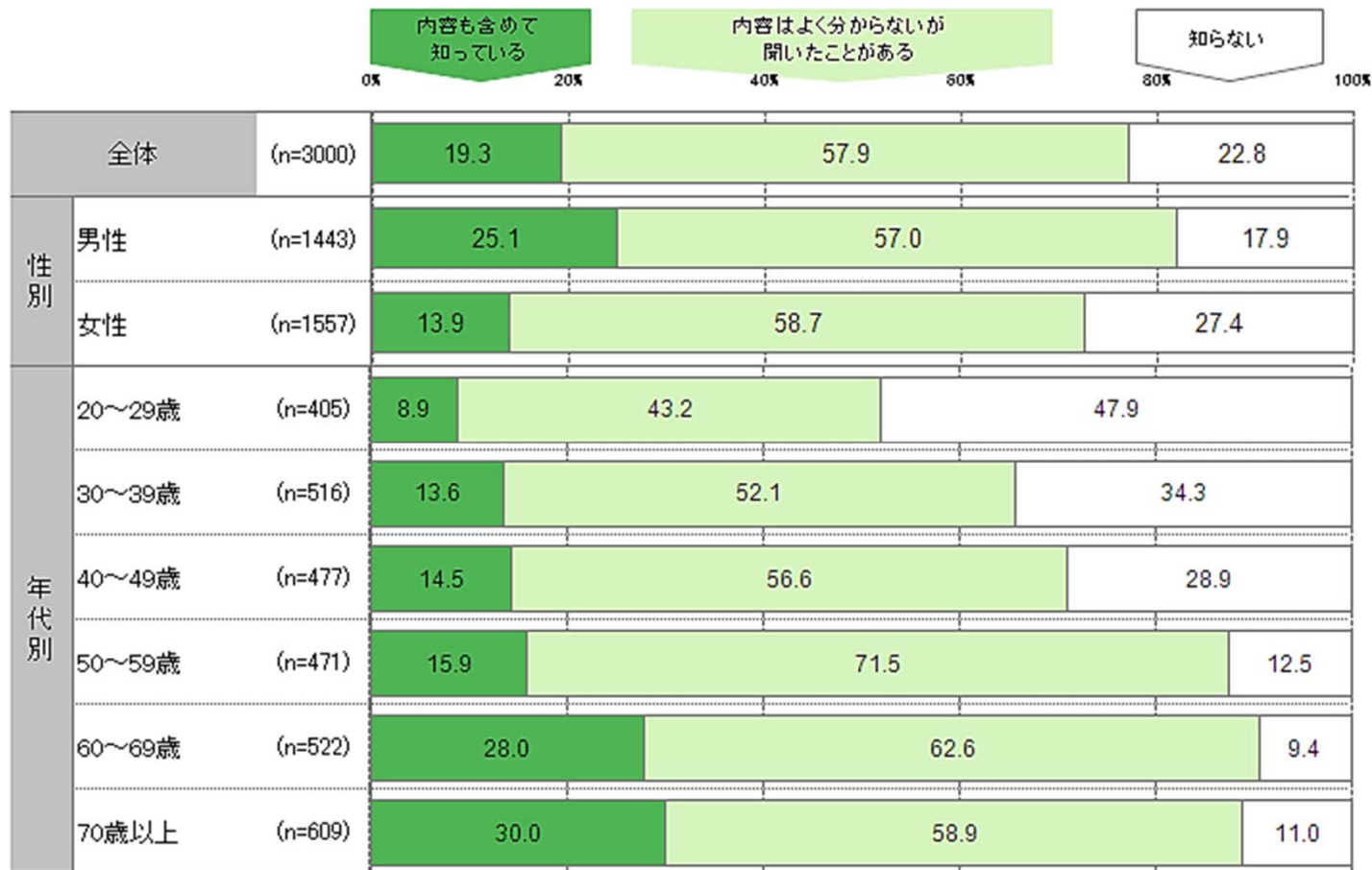
<番号制度必要度>



2-2. 番号制度導入についての認知度

- 番号制度導入が検討されていることについての認知度は、女性より男性で高い。「内容を含めて知っている」は男性25.1%に対し、女性は13.9%である。
- 年代が高くなるほど、認知度も高くなる傾向がある。20代では、「内容も含めて知っている」(8.9%)、「内容はよく分からないが聞いたことがある」(43.2%)を合わせて5割程度であるのに対し、50代以降では9割前後を占めている。
- 60代以上では、「内容も含めて知っている」が約3割と他年代と比べて認知度が高い。

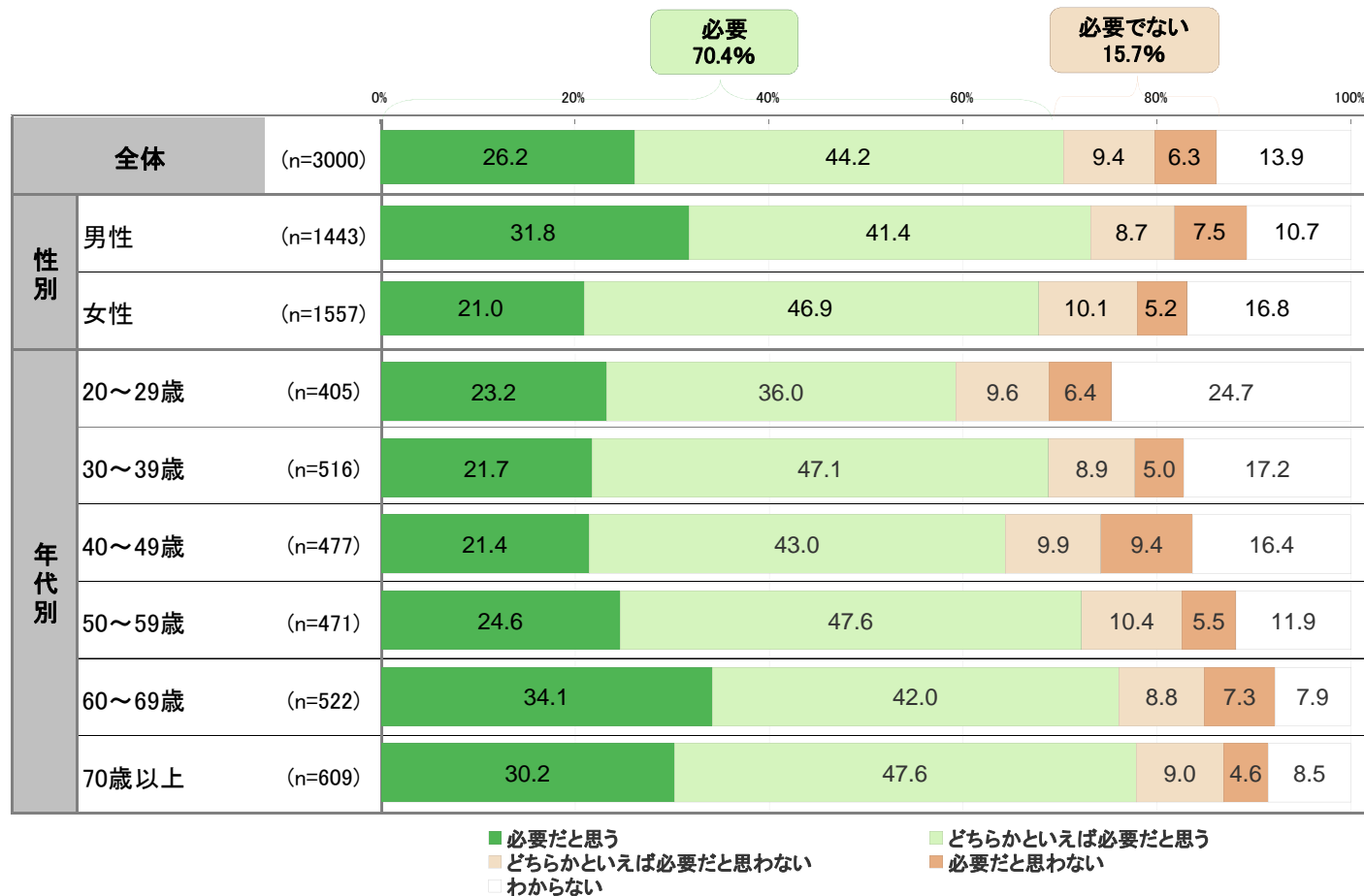
質問. 現在、政府で社会保障・税に関わる番号制度の導入が検討されていることについて、あなたはご存知ですか。[SA]



2-3. 番号制度導入に対する必要度(1)

- 番号制度の導入を「必要だと思う」のは、男性で高く31.8%。女性では「わからない」が16.8%と、男性に比べて高い。
- 年代別では、60代以上で必要度が高く、60代、70代ともに「必要だと思う」が3割を超える。
- 「わからない」は20代では24.7%を占め、年代が若いほど高い傾向がある。「必要だと思わない」あるいは「どちらかといえば必要だと思わない」は、年代を問わず1~2割存在する。

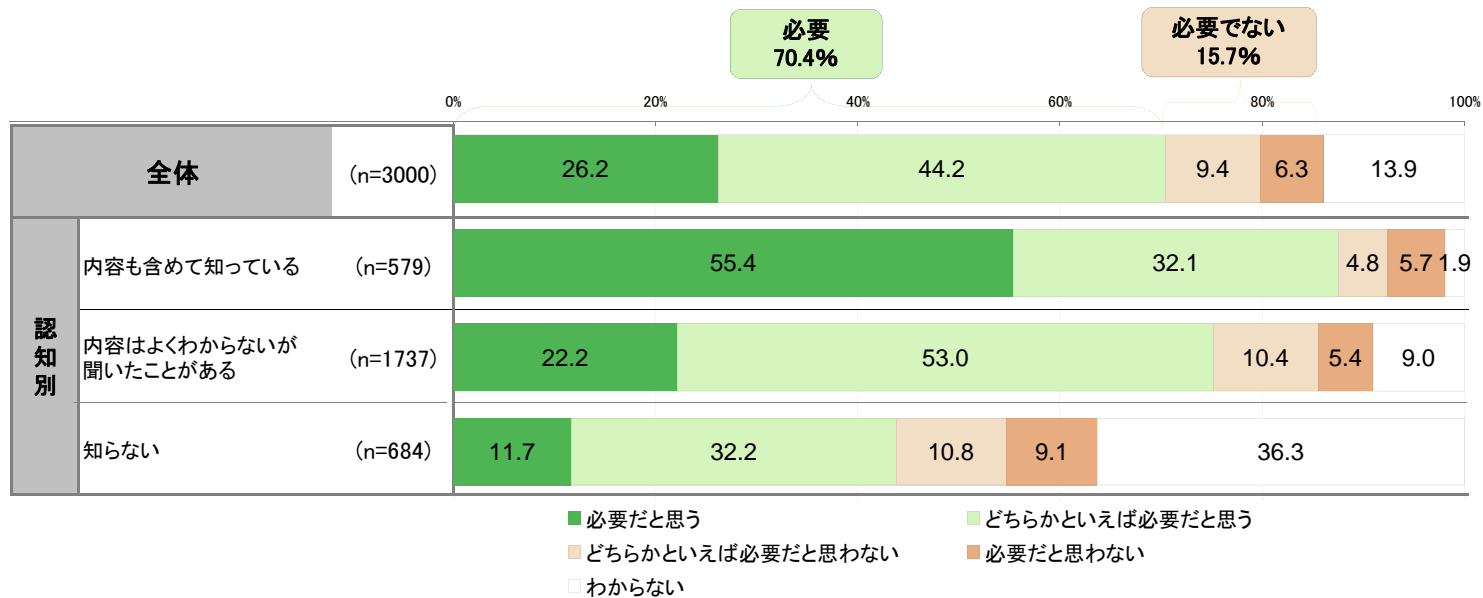
質問. あなたは、日本でも共通番号制度が必要だと思いますか。[SA]



2-4. 番号制度導入に対する必要度(2)

- 番号制度の導入検討についての認知が高いほど、必要度も高い。内容も含めて知っている層では、「必要だと思う」が55.4%であり、「どちらかといえば必要だと思う」(32.1%)を合わせると約9割が必要であると思っている。
- 番号制度の導入検討について知らない層では、「必要だと思う」は11.7%と低く、認知の有無による差が明らかである。

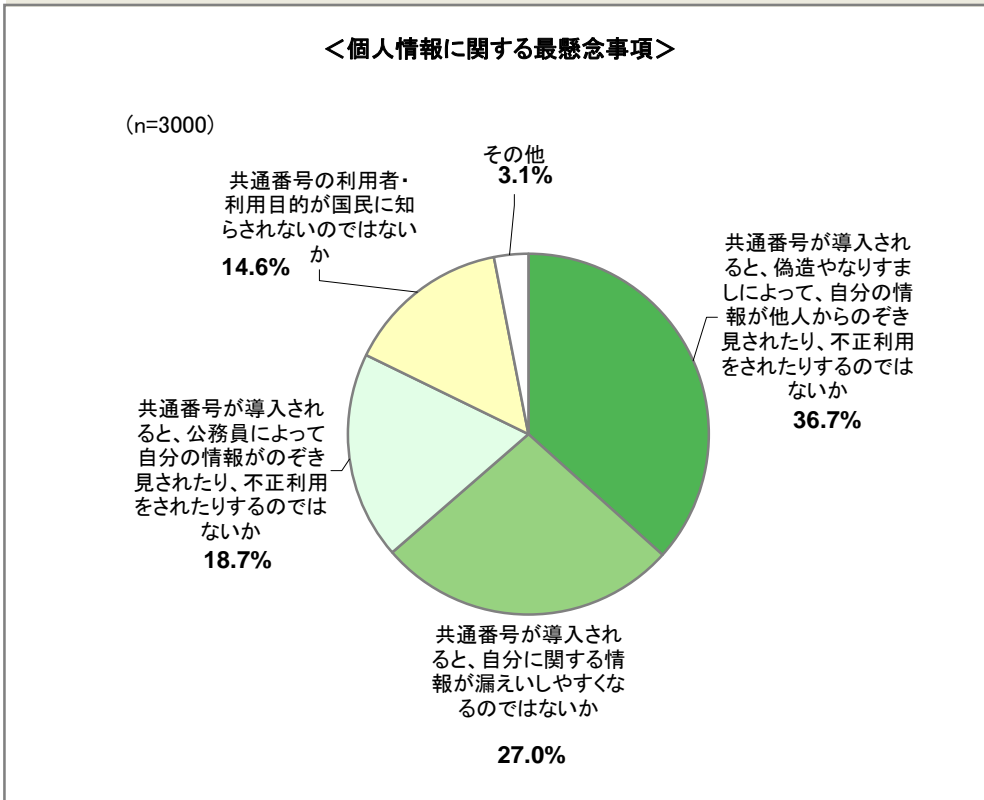
質問. あなたは、日本でも共通番号制度が必要だと思いますか。[SA]



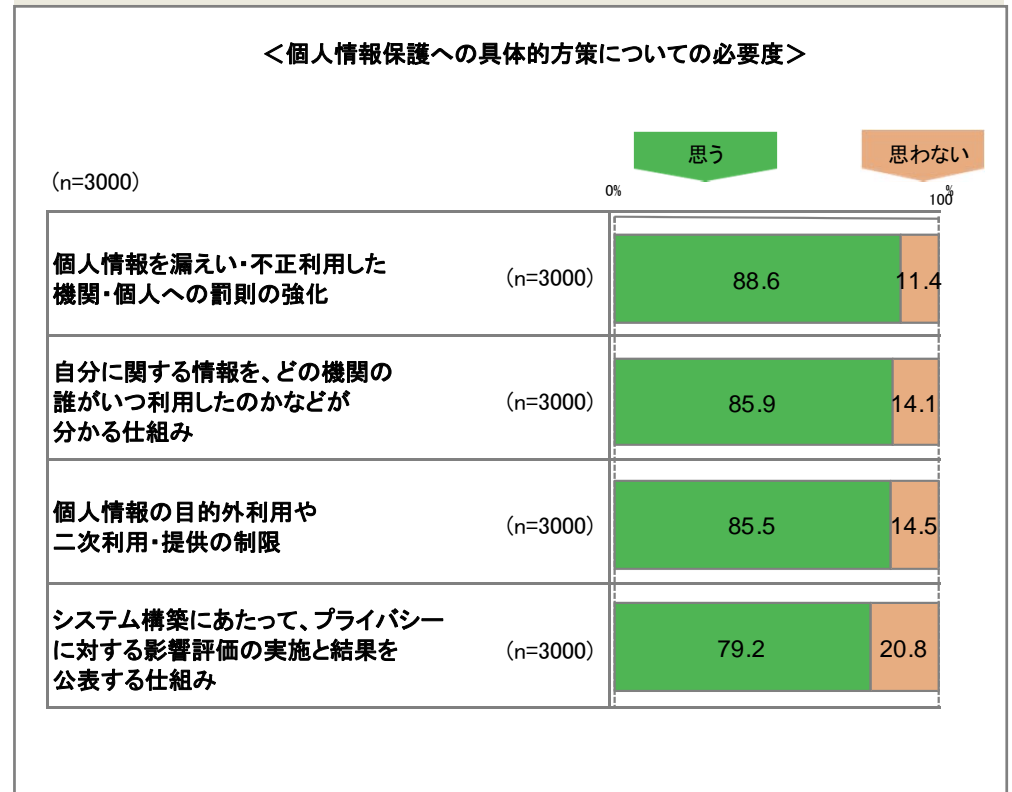
2-5. 個人情報保護に関する懸念(1)

- 番号制度導入にともなう、個人情報保護に関する最も懸念することは、「偽造やなりすましによって、自分の情報が他人からのぞき見されたり、不正利用をされたりするのではないか」で36.7%を占める。次に、「自分に関する情報が漏えいしやすくなるのではないか」(27.0%)が続く。
- 個人情報保護に向けた具体的対策について、以下の4つの項目(その他はここでは除く)について必要性を調査した。その結果、ほとんどの項目で8割以上が「思う」と回答し、高い必要性を感じている。
- 最も必要性が高いと感じられたのは「個人情報の漏えい・不正利用した機関・個人への罰則の強化」(88.6%)で、次いで「自分に関する情報を、どの機関の誰がいつ利用したのかなどが分かる仕組み」(85.9%)、「個人情報の目的外利用や二次利用・提供の制限」(85.5%)と続く。

質問. 共通番号制度の導入にあたり、個人情報保護に関して、あなたがもっとも懸念することは何ですか。[SA]



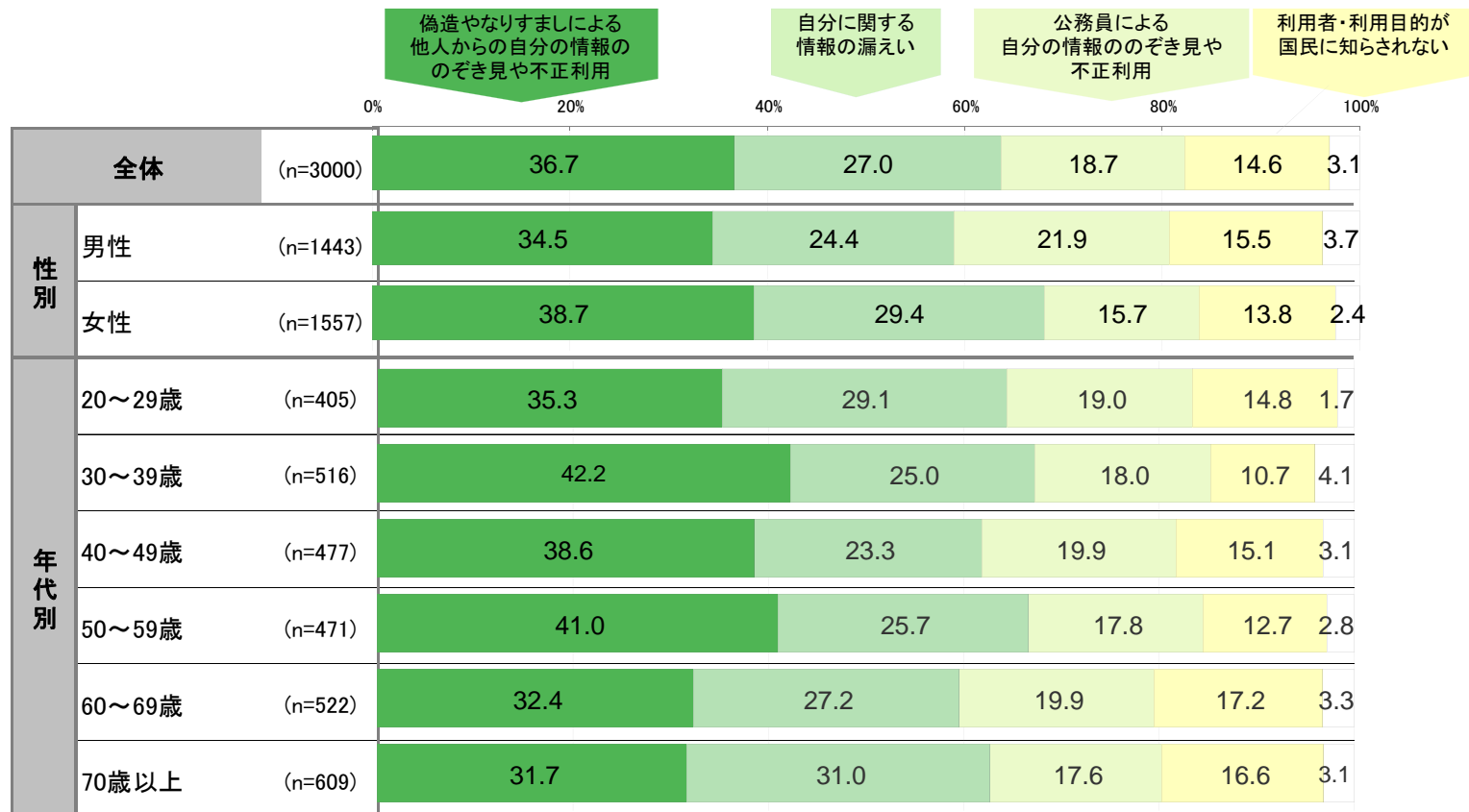
質問. 共通番号制度が導入された場合、個人情報保護の具体的方策として、下記の項目について検討しています。あなたは、それぞれの項目について必要だと思いますか。[SA]



2-6. 個人情報保護に関する懸念(2)

- 全体で最も高い「偽造やなりすましによる他人からの自分の情報ののぞき見や不正利用」は、男性(34.5%)より女性(38.7%)でやや高い。男性では、「公務員による自分の情報ののぞき見や不正利用」(21.9%)が女性(15.7%)と比べて高い。
- 年代別では、30代と50代で「偽造やなりすましによる他人からの自分の情報ののぞき見や不正利用」がやや高く、60代以降では低くなる。
- 60代以降では、「利用者・利用目的が国民に知らされない」が他層と比べてやや高い。

質問. 共通番号制度の導入にあたり、個人情報保護に関して、あなたがもっとも懸念することは何ですか。[SA]

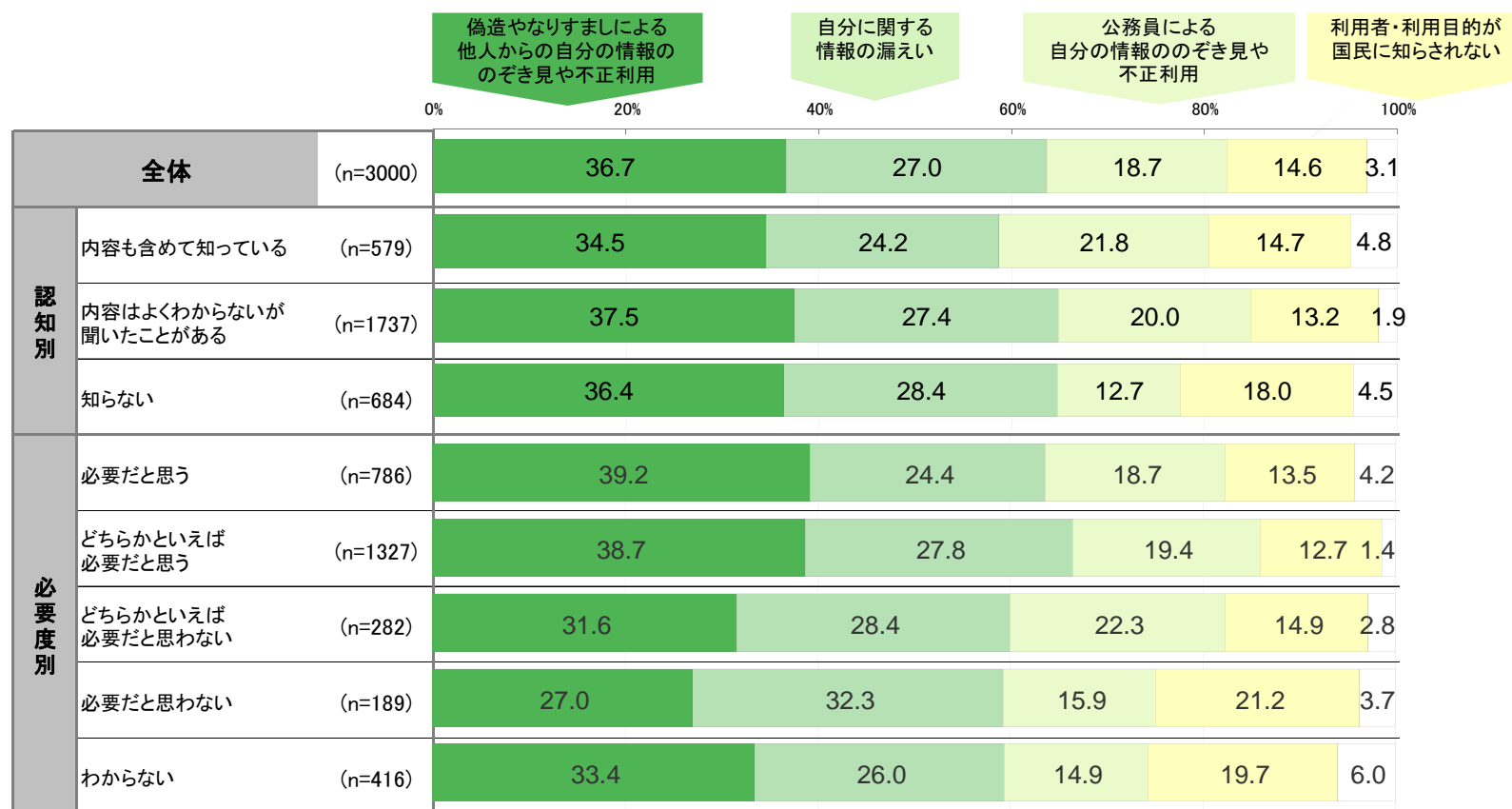


その他

2-7. 個人情報保護に関する懸念(3)

- 「偽造やなりすましによる他人からの自分の情報ののぞき見や不正利用」は、番号制度認知別では大差ないが、必要度別では必要度が高い人ほど懸念する傾向が見られる。
- 番号制度を「必要だと思わない」層では、「自分に関する情報の漏えい」の懸念が32.3%と高い。

質問. 共通番号制度の導入にあたり、個人情報保護に関して、あなたがもっとも懸念することは何ですか。[SA]

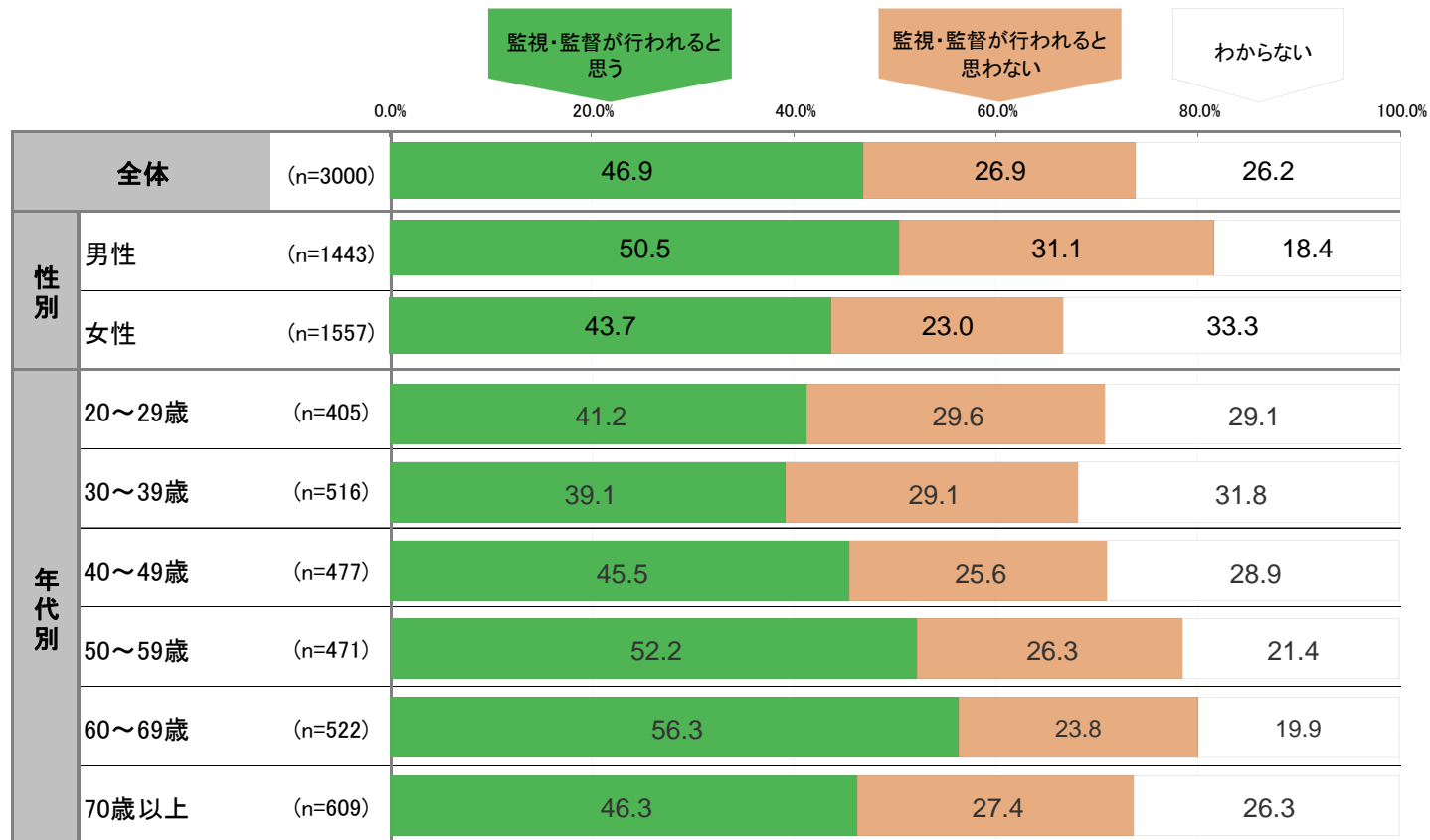


その他

2-8. 国家による監視・監督への懸念(1)

- 番号制度の導入により、国家によって国民が監視・監督が行われると思うかどうかでは、全体の46.9%が「思う」と回答している。
- 番号制度の導入で国家による国民の監視・監督については、女性より男性の方が行くと「思う」(50.5%)意識が強い。男性は同時に「思わない」(31.1%)割合も女性より高く、「わからない」は少ない。女性は「わからない」が3割を超え、男女差がある。
- 年代別では60代で、国家による監視・監督が行われると「思う」人が56.3%と最も高い。

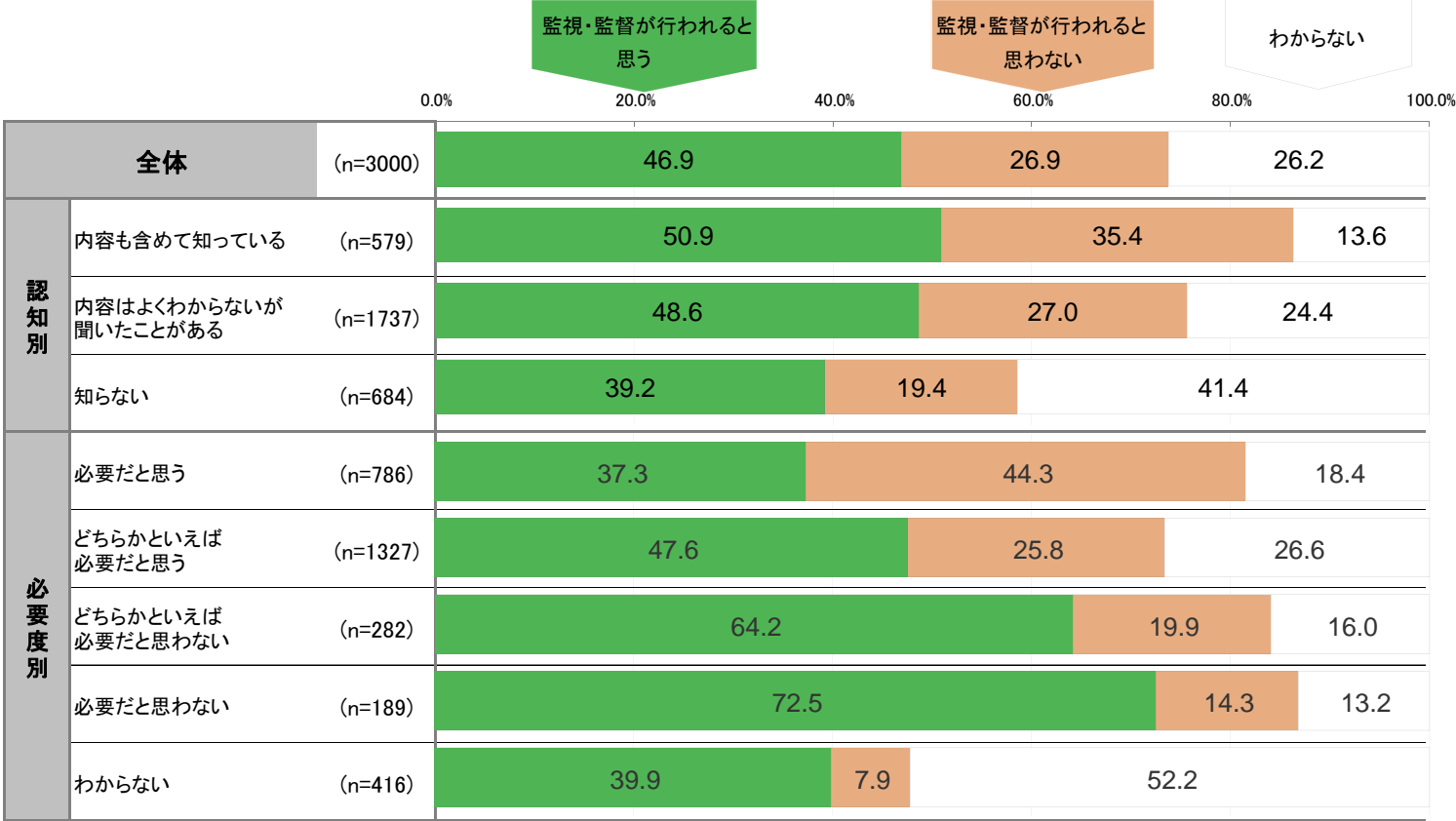
質問. 共通番号制度が導入されると、あなたは、国家による国民の監視や監督が行われるのではないかと思いますか。[SA]



2-9. 国家による監視・監督への懸念(2)

- 内容も含めて知っている層では、国家による監視・監督が行われると「思う」と50.9%が回答している一方で、35.4%が「思わない」と回答している。
- 国家による監視・監督が行われると「思う」という懸念は、番号制度を必要だと思わない層(72.5%)、どちらかといえば必要だと思わない層(64.2%)で高い。一方、必要だと思う層では「思わない」が44.3%と高く、認識の差によって違いがはっきりと表れている。

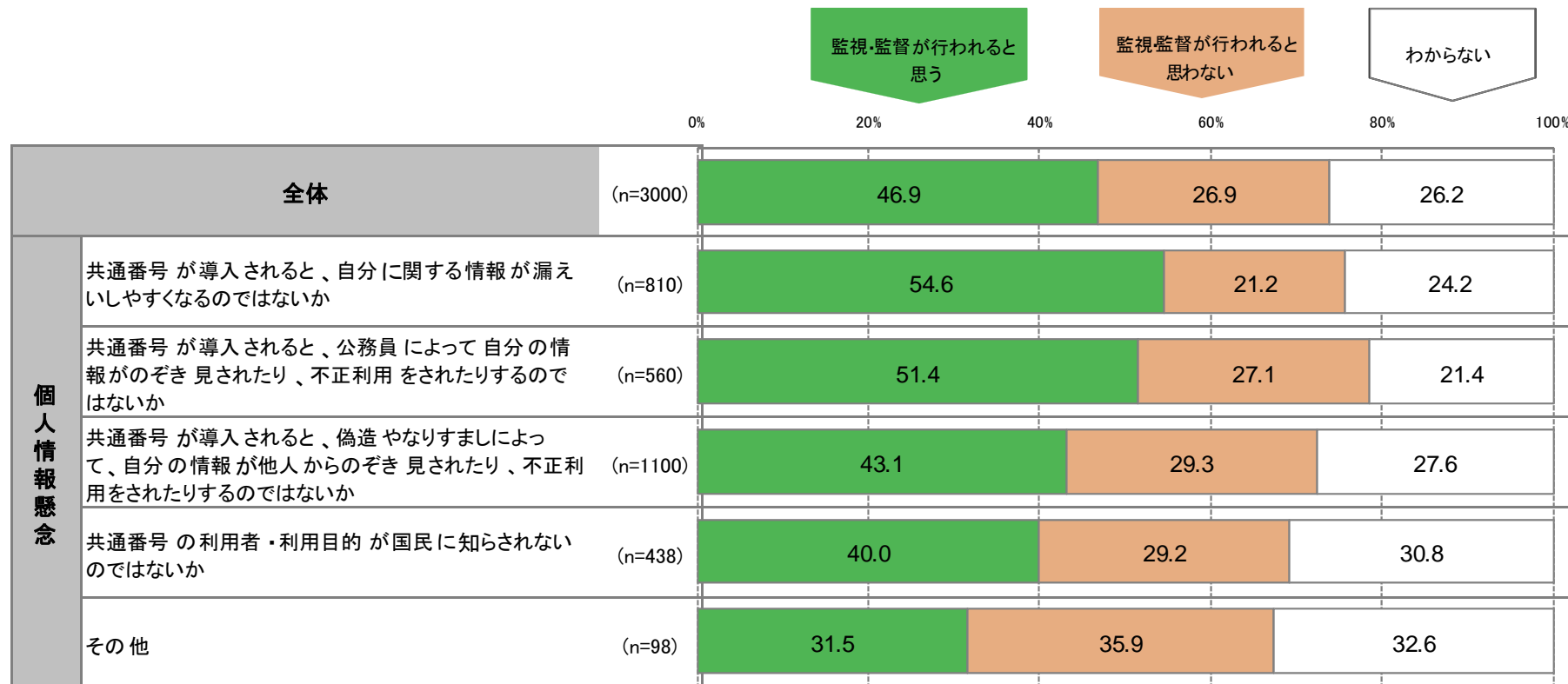
質問. 共通番号制度が導入されると、あなたは、国家による国民の監視や監督が行われるのではないかと思いますか。[SA]



2-10. 国家による監視・監督への懸念(3)

- 共通番号制度の導入にあたり、個人情報保護に関して、「自分に関する情報が漏えいしやすくなるのではないか」をもっとも懸念すると回答した層では、「国家による国民の監視や監督が行われると思う」との回答が54.6%。次いで「公務員によって自分の情報がのぞき見されたり、不正利用をされたりするのではないか」と回答した層では、「監視・監督されると思う」との回答が51.4%と5割を超える。
- 国家による国民の監視や監督が行われると思うか、各層で2~3割が「わからない」と回答している。
- 「監視・監督されと思わない」のは、「その他」を除くと「偽造やなりすましによって、自分の情報が他人からのぞき見されたり、不正利用をされたりする」(29.3%)、「共通番号の利用者・利用目的が国民に知らされない」(29.2%)、「公務員によって自分の情報がのぞき見されたり、不正利用をされたりする」(27.1%)の順に高い。

質問. 共通番号制度が導入されると、あなたは、国家による国民の監視や監督が行われるのではないかと思いますか。[SA]



2-11. 国家による監視・監督への懸念(4)

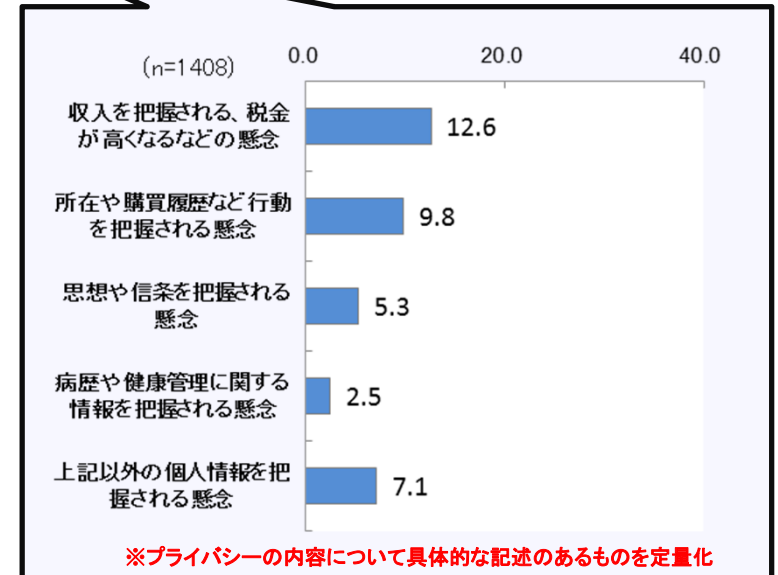
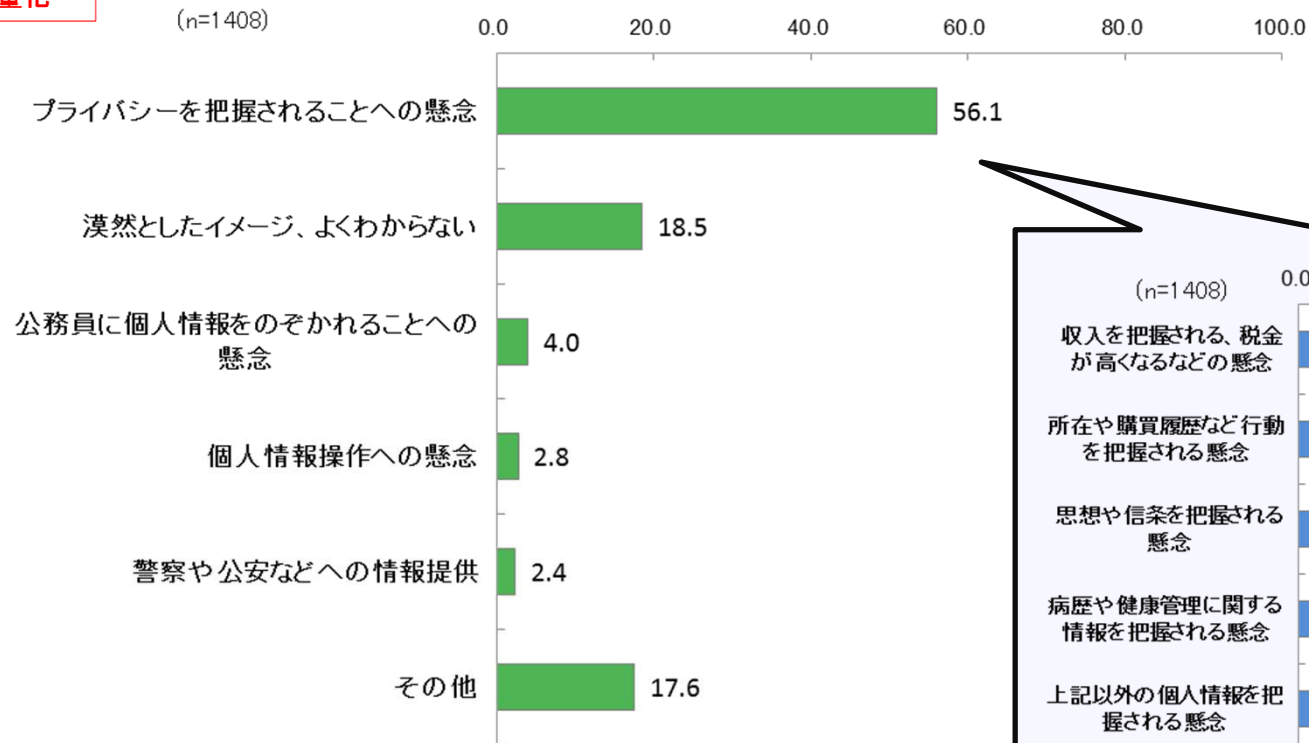
- 国家による国民の監視や監督が行われると「思う」回答者に、イメージする具体的内容を調査したところ、「プライバシーを把握されることへの懸念」が56.1%で最も高い。
- 把握されることが懸念される「プライバシー」の中身としては、「収入を把握される、税金が高くなるなどの懸念」が12.6%と最も高い結果である。

質問. 前問で「思う」と回答された方にお伺いします。国家による国民の監視や監督とは、具体的にはどのようなことですか。[FA]

※ベースは前問(国家による監視・監督への懸念)「思う」回答者

自由記述での回答
結果を定量化

<国家による監視・監督の具体的内容>

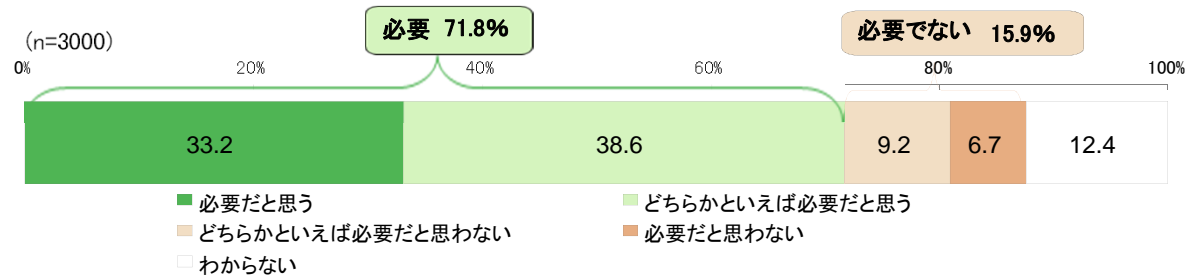


2-12. 第三者機関について

- 番号の不適正な利用や国家からの監視・監督の懸念に応えるための第三者機関の設置については、「必要だと思う」(33.2%)、「どちらかといえば必要だと思う」(38.6%)を合わせると7割強が必要を感じている。

質問. 国家による国民の監視や監督が行われたり、番号が不適正に取り扱われるのではなかというご懸念にお応えするために、行政機関から独立して、番号を扱う行政機関や民間事業者を監視し、指導・勧告・命令などの強い権限を発する「第三者機関」を設置すべきであるとの考え方があります。あなたは、このような第三者機関による監視が必要だと思いますか。[SA]

<第三者機関による監視の必要性>



質問. 前問で「どちらかといえば必要だと思わない」「必要だと思わない」と回答された方にお伺いします。「どちらかといえば必要だと思わない」「思わない」とお考えになる理由は何ですか。[FA]

<第三者機関不必要の理由>

自由記述での回答
結果を定量化

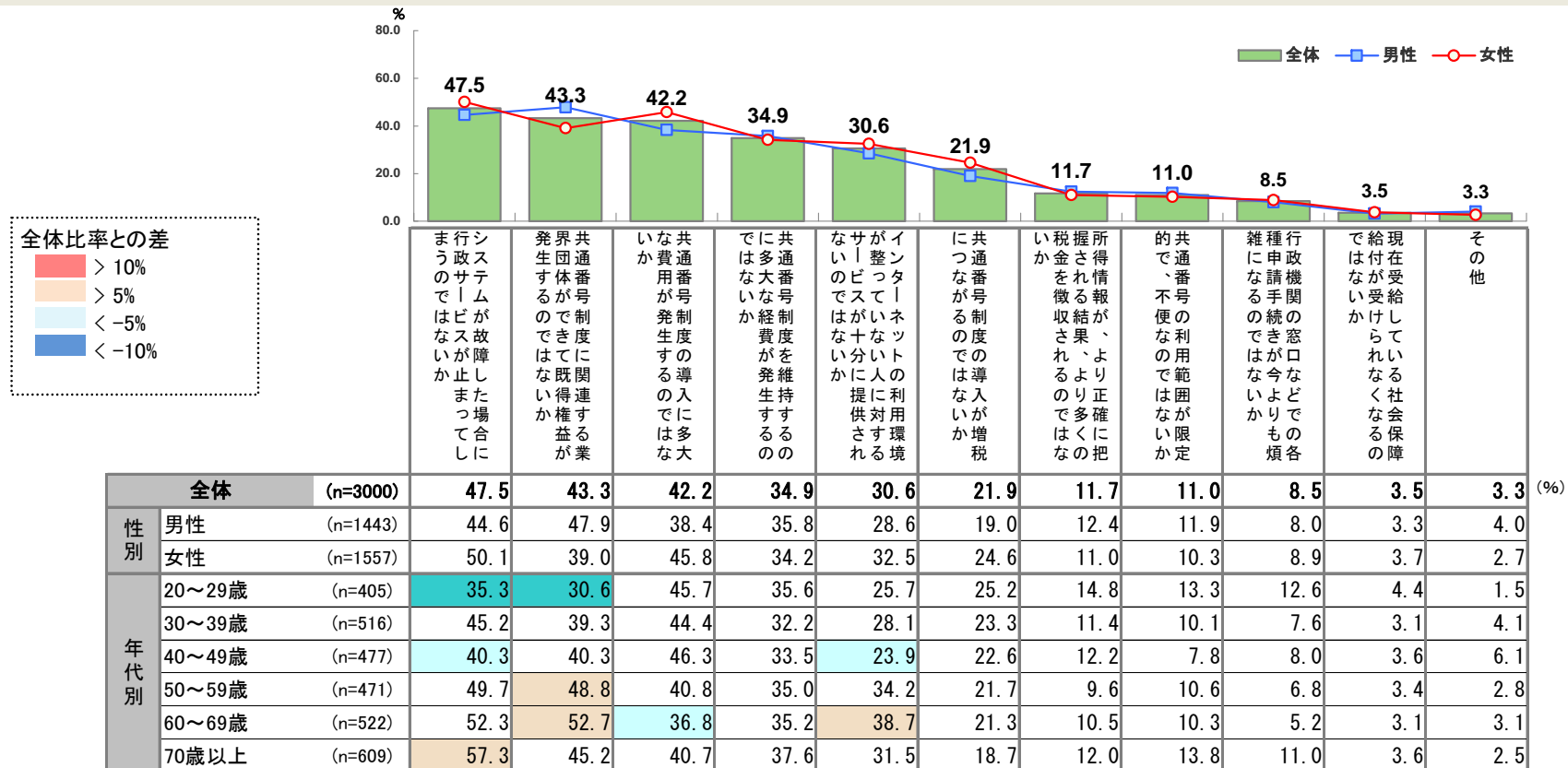


※ベースは前問(第三者機関の必要性)
「どちらかといえば必要だと思わない」
「必要だと思わない」回答者

2-13. その他の懸念(1)

- その他の懸念としては、「システムが故障した場合に行政サービスが止まってしまうのではないか」(47.5%)がトップ。その他、「共通番号制度に関連する業界団体ができて、既得権益が発生するのではないか」(43.3%)、「共通番号制度の導入に多大な費用が発生するのではないか」(42.2%)も4割以上の方が懸念している。
- 番号制度の導入にあたっての懸念事項は、年代によってやや差が見られる。50代と60代では「共通番号制度に関連する業界団体ができて既得権益が発生するのではないか」と懸念する割合が高い。また、70歳以上では「システムが故障した場合に行政サービスが止まってしまうのではないか」という不安が他層より高い。
- 20代では「共通番号制度の導入に多大な費用が発生するのではないか」が45.7%と高くなっている。

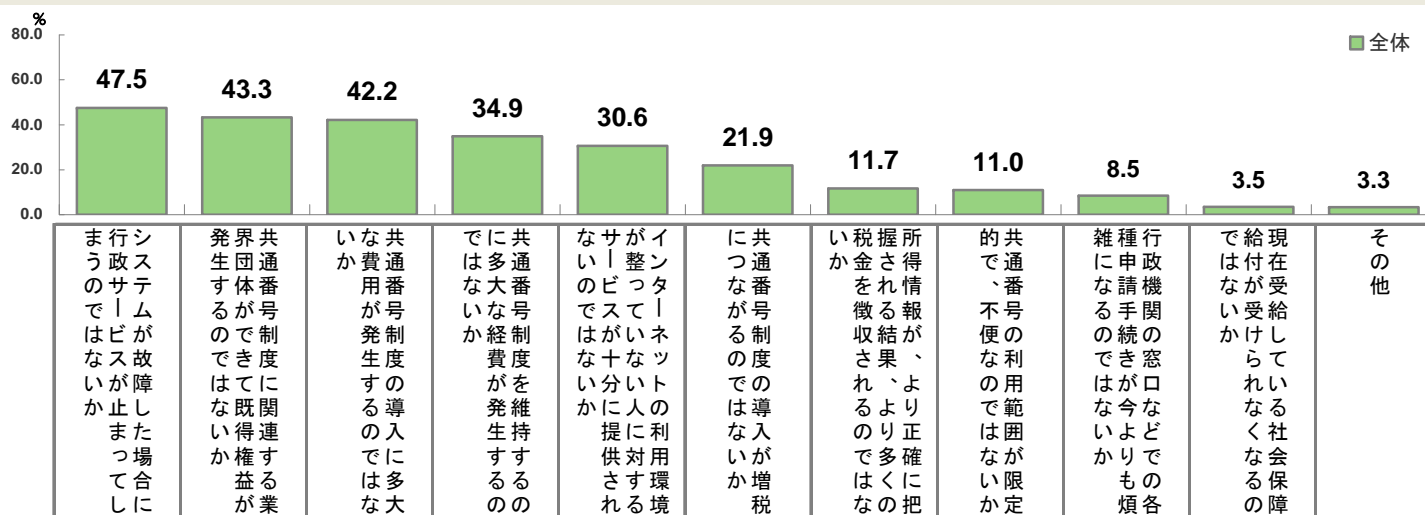
質問. その他、共通番号制度の導入にあたり、あなたが懸念することについて、下記の中から3つまでお選びください。[3MA]



2-14. その他の懸念(2)

- 番号制度について内容も含めて知っている層、および必要だと思う層では、「システムが故障した場合に行政サービスが止まってしまうのではないか」、「共通番号制度に関連する業界団体ができて、既得権益が発生するのではないか」を特に懸念している。
- 必要だと思う層では、「インターネットの利用環境が整っていない人に対するサービスが十分に提供されないのではないか」という懸念も高い。
- 番号制度導入検討について知らない層では51.9%、番号制度を必要だと思わない層では51.3%が番号制度の導入に多大な費用が発生するのではないかと懸念している。

質問. その他、共通番号制度の導入にあたり、あなたが懸念することについて、下記の中から3つまでお選びください。[3MA]



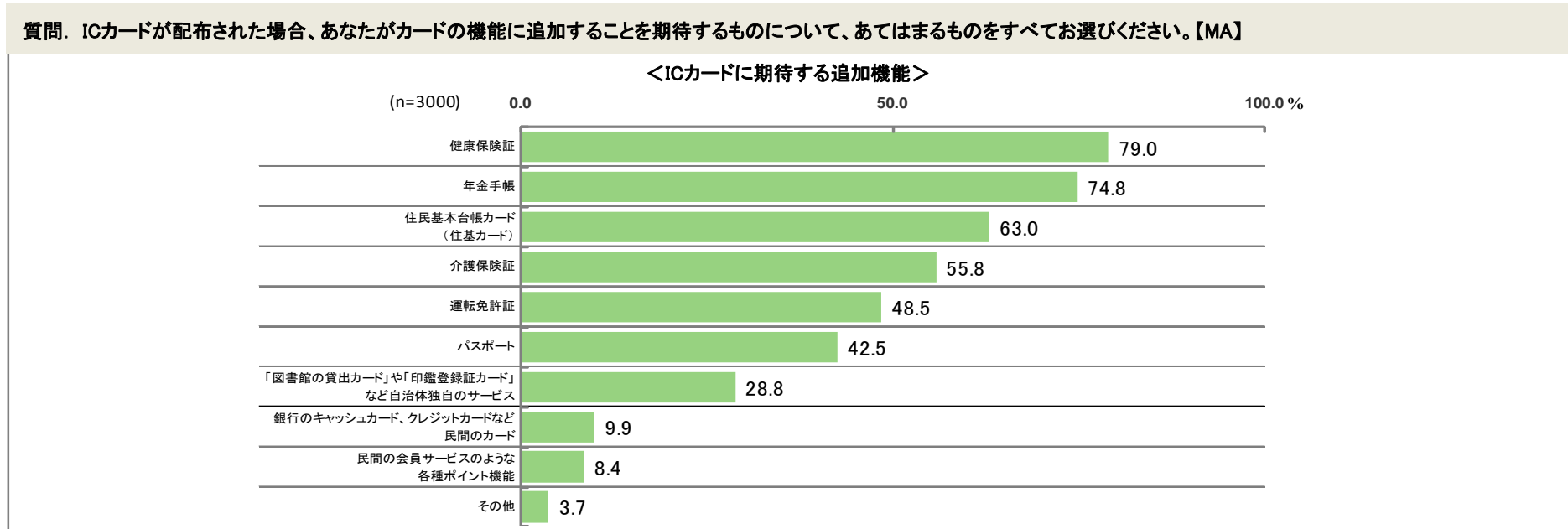
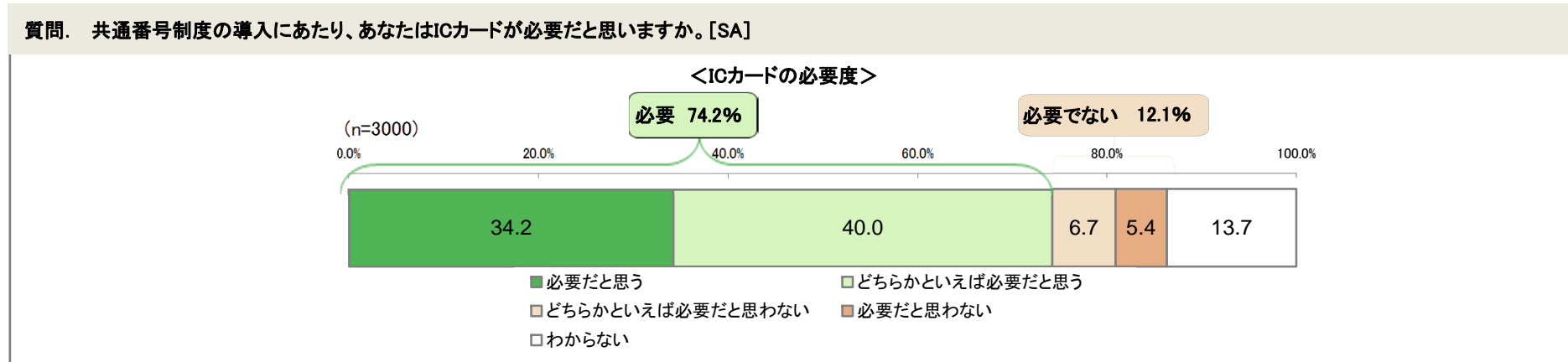
全体比率との差

- > 10%
- > 5%
- < -5%
- < -10%

全体		n	47.5	43.3	42.2	34.9	30.6	21.9	11.7	11.0	8.5	3.5	3.3	(%)
認知別	内容も含めて知っている	(n=579)	55.1	56.1	32.5	32.1	33.3	17.6	9.3	15.4	4.8	2.9	3.5	
	内容はよくわからないが聞いたことがある	(n=1737)	49.9	44.8	41.7	35.5	30.9	22.1	11.3	9.7	8.8	2.9	3.2	
	知らない	(n=684)	34.8	28.7	51.9	35.8	27.5	25.0	14.6	10.7	10.8	5.4	3.7	
必要度別	必要だと思う	(n=786)	54.8	53.7	34.1	29.0	36.4	18.1	8.5	13.4	5.2	1.7	3.6	
	どちらかといえば必要だと思う	(n=1327)	52.6	44.2	44.1	38.3	30.6	22.5	12.6	9.2	7.8	3.5	2.0	
	どちらかといえば必要だと思わない	(n=282)	32.3	35.1	45.4	37.9	24.5	28.0	13.1	9.9	14.2	5.0	2.8	
	必要だと思わない	(n=189)	34.9	38.6	51.3	37.0	22.2	24.3	15.9	10.1	11.6	6.3	6.3	
	わからない	(n=416)	33.2	28.6	45.4	32.5	27.6	22.1	11.8	13.7	11.5	4.6	6.0	

2-15. ICカードについて(1)

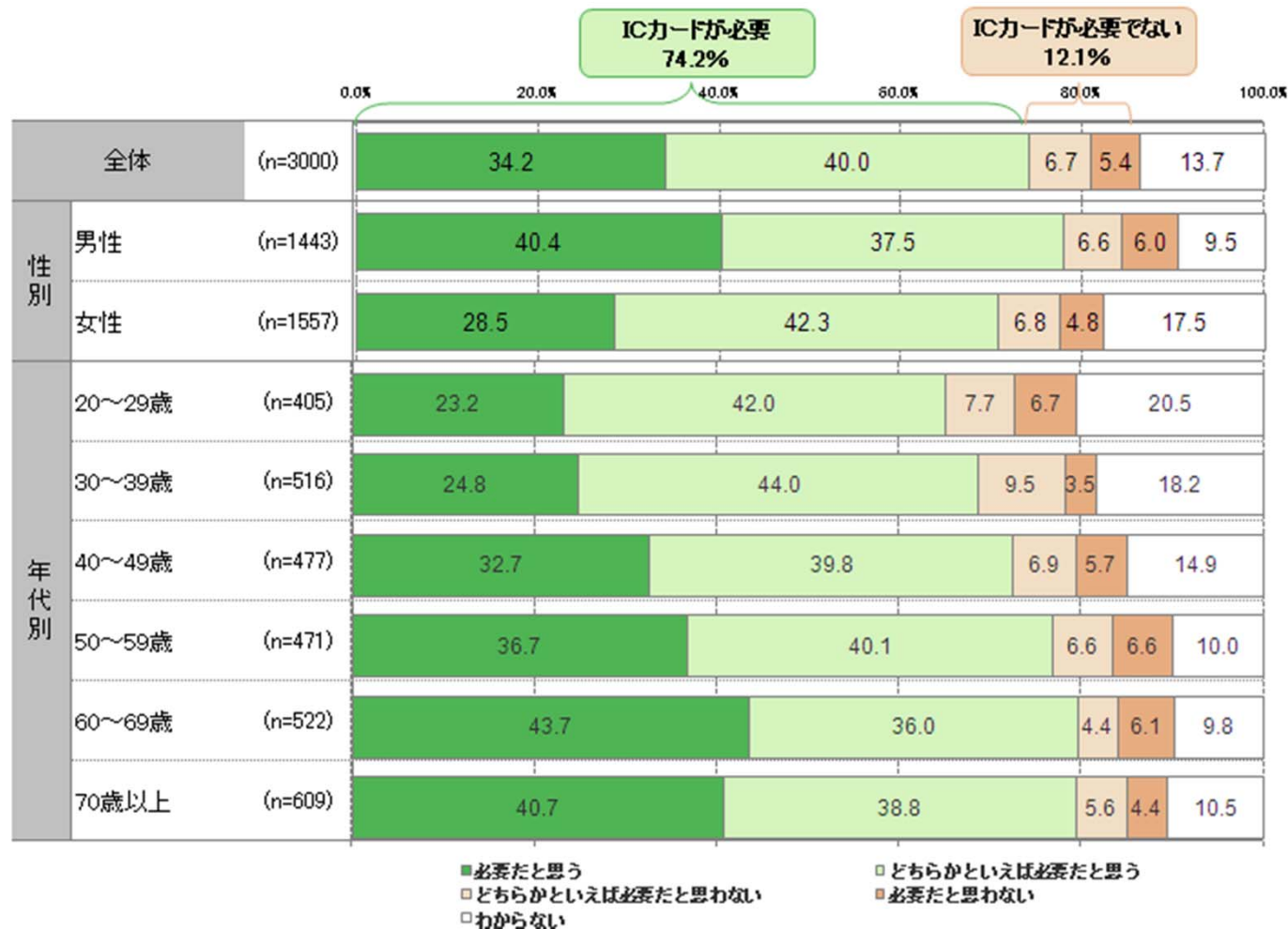
- 番号制度導入にともなうICカードについては、「必要だと思う」(34.2%)、「どちらかといえば必要だと思う」(40.0%)を合わせると7割強が必要だと感じている。
- ICカードに期待する追加機能は、「健康保険証」が79.0%でトップ。次いで「年金手帳」(74.8%)、「住民基本台帳カード」(63.0%)、「介護保険証」(55.8%)が続く。



2-16. ICカードについて(2)

- 番号制度導入におけるICカード必要度は、女性より男性で高い。「必要だと思う」は男性では40.4%、「どちらかといえば必要だと思う」(37.5%)を合わせると8割近くが必要だと感じている。
- 年代別では、年齢が高まるほど必要と感じる割合もやや高まる。年齢が若いほど「わからない」が高い。

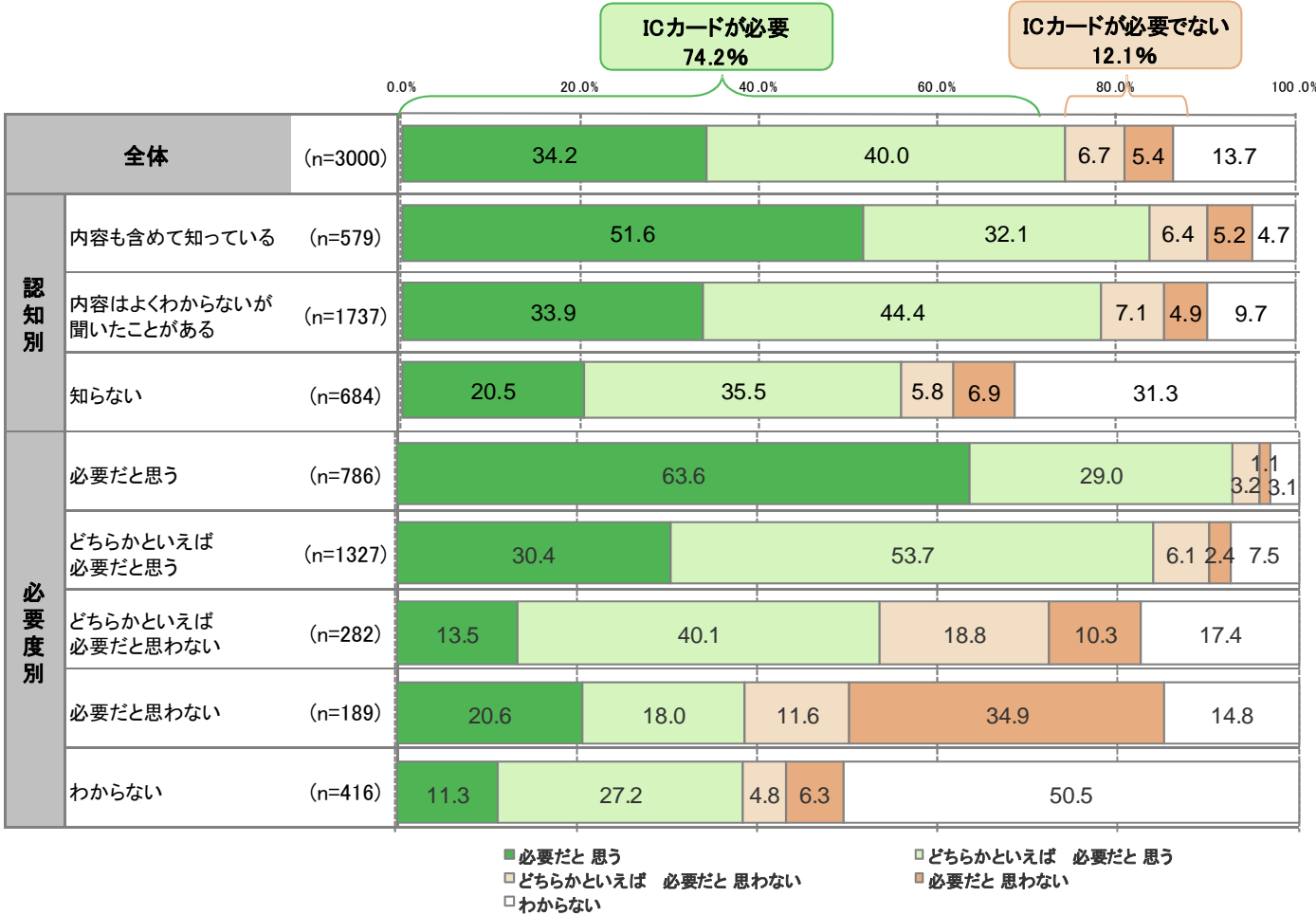
質問. 共通番号制度の導入にあたり、あなたはICカードが必要だと思いますか。[SA]



2-17. ICカードについて(3)

- 番号制度導入について内容も含めて知っている層、必要だと思う層では、ICカードが「必要だと思う」割合が高く、特に必要だと思う層では、ICカードが「必要だと思う」(63.6%)、「どちらかといえば必要だと思う」(29.0%)を合わせると9割を超える。
- 番号制度導入が必要だと思う層とどちらかといえば必要だと思う層では、ICカードを「必要だと思う」割合に明らかな差があり、制度導入に対する意識の差がICカードの必要度の差につながっている。

質問. 共通番号制度の導入にあたり、あなたはICカードが必要だと思いますか。[SA]

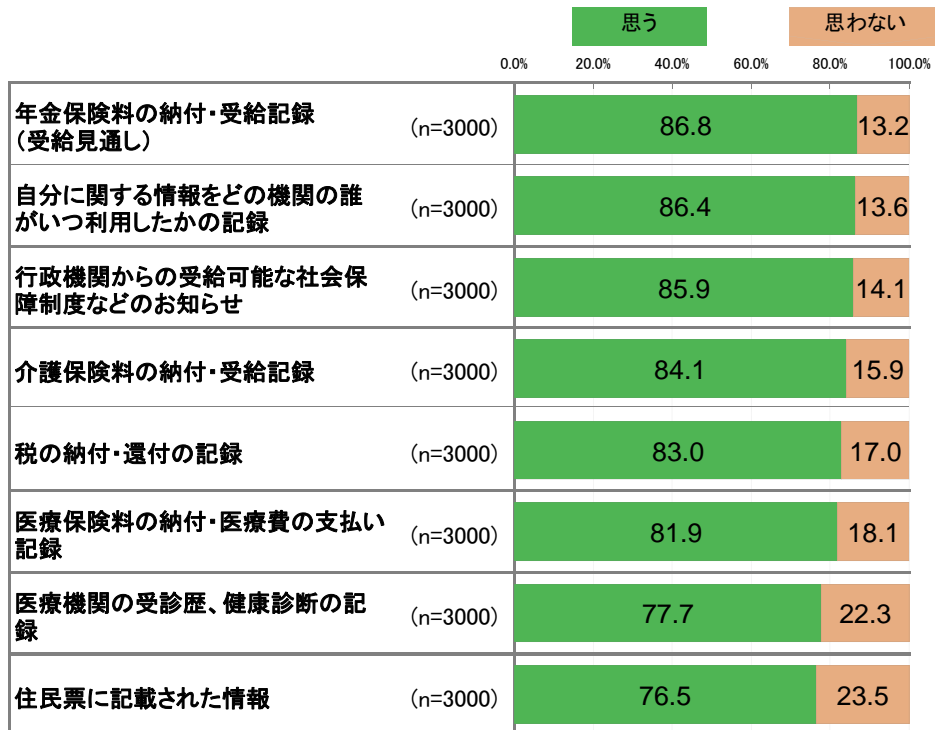


2-18. マイ・ポータルについて

- マイ・ポータルについて、以下の8つの機能・情報サービスの利便性を調査した。その結果、ほとんどの項目で8割前後が「(便利だ)と思う」と回答し、公的機関と自分との関わりが見えることに対する期待度は高いといえる。
- 特に便利だと思うものは、「年金保険料の納付・受給記録」(86.8%)、「自分に関する情報をどの期間の誰がいつ利用したかの記録」(86.4%)、「行政機関からの受給可能な社会保障制度などのお知らせ」(85.9%)の順に高い。
- マイ・ポータルでできるようになると良いサービスとしては、「確定申告の手続きができる」(73.6%)、「引っ越しの際の地方自治体、法務局、水道局、電力会社など公共機関への転居届けが出せる」(72.8%)が高い。

質問. 自分に関する情報や記録を確認できるように、インターネット上に「マイ・ポータル」を設置することが検討されています。以下の項目について、マイ・ポータルで閲覧できると便利だと思いますか。[SA]

＜マイ・ポータルで閲覧できると便利だと思うもの＞



質問. あなたは、マイ・ポータルでどのような手続きができるようになると良いと思いますか。以下の項目について、あてはまるものをすべてお選びください。[MA]

＜マイ・ポータルで手続きできると良いもの＞

